YAMAHA

取扱説明書

⚠ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

MT-10SP

モーターサイクル

MT-10 SP (MTN1000D)

BGG-28199-J0●

安全運転のために 1
各部の名称 2
車両の特徴 3
各部の取り扱いと操作 4
日常点検 5
運転操作 6
点検整備 7
お車の手入れ 8
製品仕様 9
ユーザー情報 10
索引 11

JAU27254

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。
車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。
車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。
また、メンテナンスノート、セーフティガイド（バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。
本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠	**安全にかかわる注意情報を示してあります。**
⚠ 警 告	**取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。**
注 意	**取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**
要　点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※ 車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。
※ 仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために 1-1
- あなた自身と同乗者のために 1-1
- 歩行者と他の車のために 1-5
- 環境・住民の方との調和のために 1-6

各部の名称 2-1
- 左側面 2-1
- 右側面 2-2
- 運転装置と計器類 2-3

車両の特徴 3-1
- YRC（ヤマハライドコントロール） 3-1
- 用語集 3-4
- YRC ビジュアルガイド 3-5
- クルーズコントロールシステム 3-6
- YVSL（ヤマハバリアブルスピードリミッター - 自己車速制限制御） 3-8

各部の取り扱いと操作 4-1
- キーの取り扱い 4-1
- イモビライザーシステム 4-2
- メインスイッチ 4-2
- ハンドルスイッチ 4-3
- 警告灯と表示灯 4-6
- ディスプレイ 4-9
- メニュー画面 4-18
- シフトペダル 4-30
- ブレーキコントロール (BC) 4-31
- フューエルタンクキャップ 4-32
- 燃料 4-33
- シート 4-33
- ヘルメットホルダー 4-34
- 書類入れ 4-34
- フロントフォークの調整 4-35
- リヤクッションの調整 4-36
- 荷掛けフック 4-37
- ブレーキレバーの握り調整 4-37
- パワーアウトレット 4-38
- ETC コネクター 4-38
- サイドスタンド 4-39
- イグニッションサーキットカットオフシステム 4-39

日常点検 5-1
- 日常点検の実施 5-1
- 日常点検箇所／点検内容 5-1

運転操作 6-1
- ならし運転 6-1
- エンジン始動 6-1
- ギヤチェンジのしかた 6-2
- ブレーキ 6-3
- 駐車 6-4

点検整備 7-1
- 点検整備の実施 7-1
- サービスツール 7-2
- エンジンオイル 7-2
- エンジンのかかり具合、異音の点検 7-3
- 低速、加速の状態の点検 7-4
- 冷却水 7-4
- エアクリーナーエレメントの交換 7-7
- タイヤ 7-7
- クラッチレバーの遊びの調整 7-9
- ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検 7-10
- ブレーキランプスイッチの点検 7-10
- フロントおよびリヤブレーキパッドの点検 7-10
- ブレーキ液量の点検 7-11
- ドライブチェーン 7-12
- ドライブチェーンの給油 7-13
- バックミラー 7-13
- 車体各部の給油脂状態の点検 7-14
- アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングステム） 7-14
- バッテリー 7-15
- ヒューズの交換 7-16
- 灯火装置および方向指示灯の点検 7-18
- 運行において異常が認められた箇所の点検 7-19

お車の手入れ 8-1
- 洗車 8-1
- アルミフレーム、キャストホイールの取り扱い 8-2
- 保管のしかた 8-3
- アフターケア用品について 8-3

製品仕様 9-1

ユーザー情報 10-1
二輪車を廃棄する場合は？ 10-1
サービスマニュアル（別売）の紹介 10-2
車両情報 10-2

索引 11-1

JAU27281

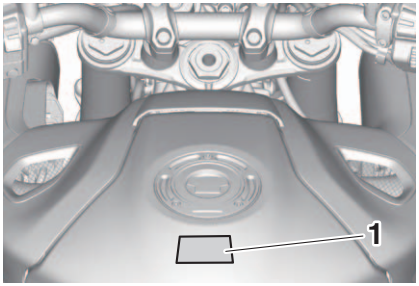
この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。
安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

JAU2737A

あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。
車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

⚠ 警 告

- 取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- 違法改造はやめましょう。
- 定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットは PSC または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっくり合って、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
  - 保護性の高い服で明るく目立つ色のも

の

- 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン



● 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
  - ズボンのすそや袖口の広い服
  - 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服
  - ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服





● 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。
● 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

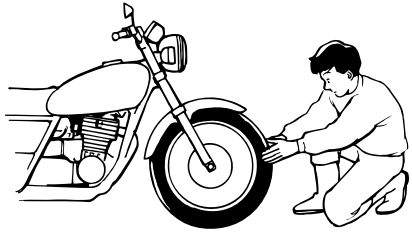
JWA11601

⚠警 告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令で定められた日常点検を行ってください。また、法令で定められた１年、２年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。



車の異状

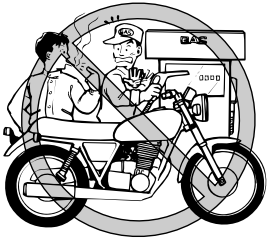
次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそ

れがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

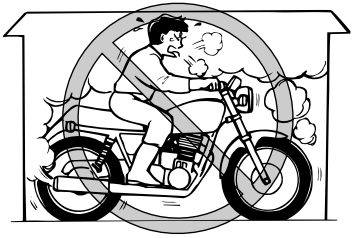
ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。



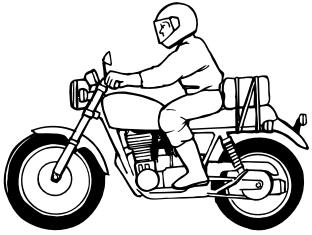
風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。



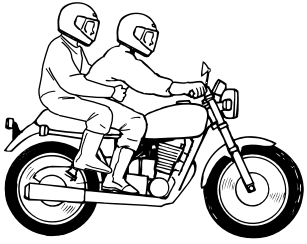
荷物はしっかり固定する



- 荷物を積むと、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。
- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。
- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。
- マフラー、エンジンなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

両手はハンドル、両足はフットレスト

- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。



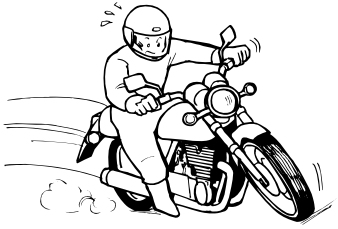
乗車定員は 2 名

ただし、免許取得後 1 年未満の運転者は、法令により 2 人乗りはできません。

また、高速道路（2 人乗りが許可されている高速道路）においては、20 才以上で、免許取得後 3 年を経過した運転者でなければ 2 人乗りはできません。

急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。



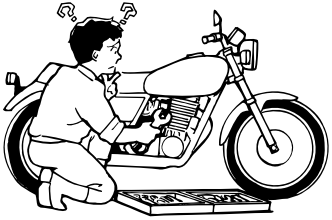
誤った方法でエンジンを停止しない

誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。



JCA15221

注 意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

継続検査（車検）を受ける

二輪の小型自動車（251cm^3 以上）は、国で定める継続検査を受けなければ使用できません。また、初回の継続検査は新規登録日から 3 年後に受け、2 回目以降の継続検査はその後 2 年ごとに受けます。

検査の有効期間満了前に必ず、継続検査を受けてください。



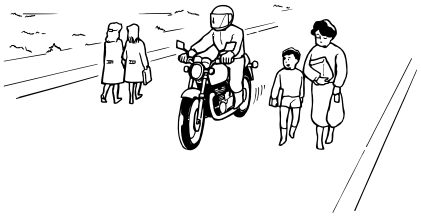
1

JAU27504

歩行者と他の車のために

他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



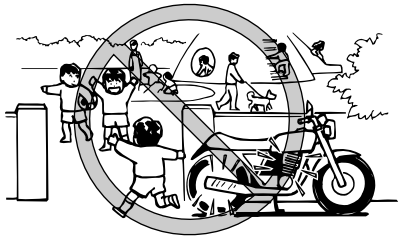
駐車

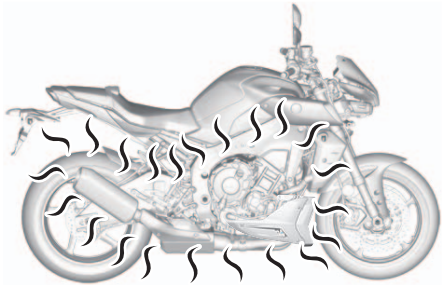
- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- 車から離れる前に、スタンドが確実にセットされているかを確認してください。

JWA12241

⚠警 告

- **エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。**
- **駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。**
- **マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。**





昼間はヘッドライトを下向きに

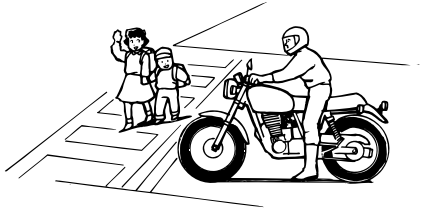
この車両は自動昼間点灯仕様です。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

JAU27582

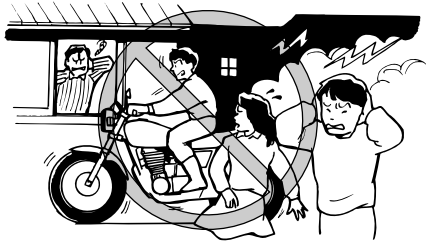
環境・住民の方との調和のために

住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。

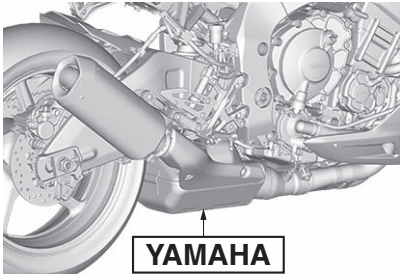


特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。



違法改造はしない

- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには“YAMAHA”マークが刻印されています。



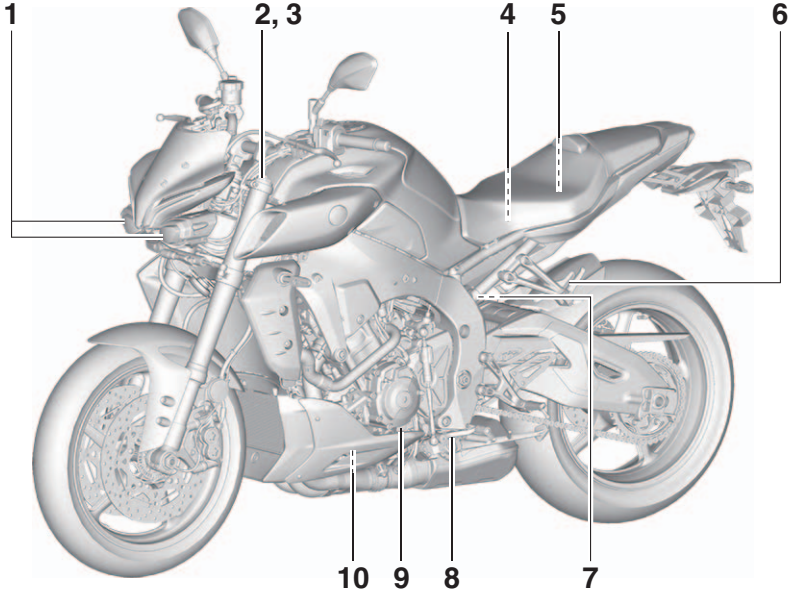
環境への配慮

廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

各部の名称

JAU10411

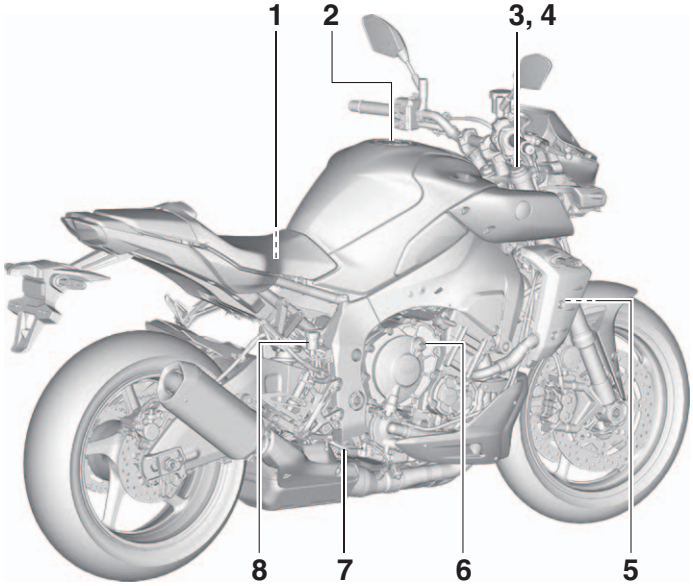
左側面



1. ヘッドライト
2. ERS カプラー (P4-35)
3. スプリングプリロードアジャスター (P4-35)
4. バッテリー（P7-15）
5. ヒューズ（P7-16）
6. ヘルメットホルダー（P4-34）
7. スプリングプリロードアジャスター (P4-36)
8. シフトペダル（P4-30）
9. エンジンオイル点検窓（P7-2）
10. オイルフィルターエレメント

JAU10421

右側面

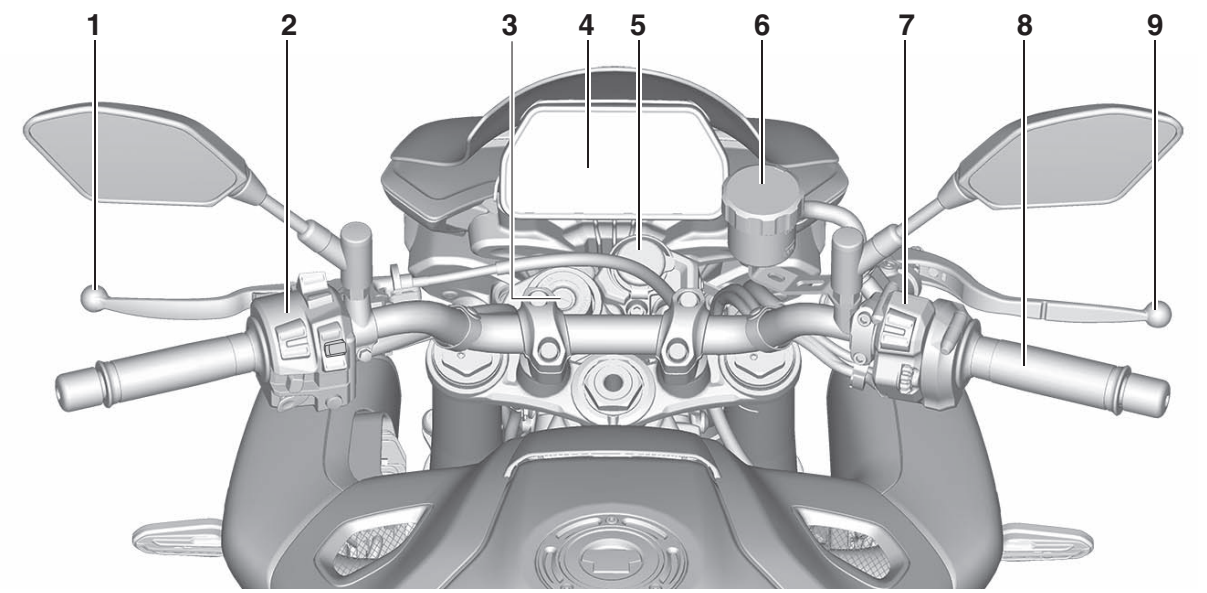


1. サービスツール（P7-2）
2. フューエルタンクキャップ（P4-32）
3. ERS カプラー (P4-35)
4. スプリングプリロードアジャスター (P4-35)
5. リカバリータンク（P7-4）
6. オイル注入口（P7-2）
7. ブレーキペダル（P7-10）
8. リヤブレーキリザーバータンク（P7-11）

各部の名称

JAU10431

運転装置と計器類



1. クラッチレバー（P7-9）
2. ハンドルスイッチ（左）（P4-3）
3. メインスイッチ / ハンドルロック（P4-2）
4. マルチファンクションメーター（P4-9）
5. パワーアウトレット (P4-38)
6. フロントブレーキリザーバータンク（P7-11）
7. ハンドルスイッチ（右）（P4-3）
8. スロットルグリップ
9. ブレーキレバー（P7-10）

JAU93653

YRC（ヤマハライドコントロール）

YRC は、多くのセンサーや制御を組み合わせ、より良い走行を支援するシステムです。車両の傾斜角度、加速度や、前後、上下、左右の各方向に沿った力を検出し、1 秒間に複数回の演算処理を行い、必要に応じて自動的に各システムが調整されます。下記の個々の YRC 項目について、オン／オフを切り替えたり、ライダーや走行状況に合わせた調整をすることができます。設定の詳細は、メニュー画面の項目をご覧ください。（4-16 ページ、4-19 ページ参照）

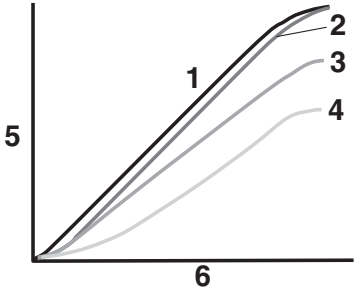
JWA18221

⚠警 告

ヤマハライドコントロール（YRC）システムは、過度の速度超過などによる車両のコントロール不能やコーナリング時のスリップ、急カーブ走行および制動中からの急激な加速への移行といった、不適切な運転操作に対しては車輪のスリップや前輪が浮いてしまうことを防ぐことはできません。運転者自身の技量限度内で運転し、周囲の状況に応じた運転を心がけましょう。無理な走行は行わず、YRC の設定や運転操作全般に慣れるようにしましょう。

PWR

PWR は、スロットルグリップの操作量に応じてスロットルバルブの開度を調整する、4 つの制御マップからなります。ライダーの好みや、走行状況に適したモードが選択できます。



1. PWR 1
2. PWR 2
3. PWR 3
4. PWR 4
5. スロットルバルブ開度
6. スロットルグリップ操作量

トラクションコントロールシステム

トラクションコントロールシステムは、加速時のスリップを抑制します。センサーが後輪のスリップを検知すると、トラクションコントロールシステムはスリップ状態が回復するまで、エンジン出力を制御します。このとき、トラクションコントロールシステム表示が点滅し、ライダーにトラクションコントロールシステムが有効になったことを知らせます。

トラクションコントロールシステムは、車両の傾斜角度に応じて自動的に制御します。最適な加速のため、車両が直立しているときはトラクションコントロールシステム制御が抑えられ、コーナリング時には、トラクションコントロールシステム制御が強くなります。



要　点

- トラクションコントロールシステムは、車両が段差を乗り越えたときなどに作動することがあります。
- トラクションコントロールシステムや他の YRC システムが作動すると、エンジン

音や排気音がわずかに変化することがあります。
- トラクションコントロールシステムがオフになると、SCS と LIF も自動的にオフになります。

JWA15433

⚠警 告

トラクションコントロールシステムは、道路の状況に合わせた適切な走行をするための機能ではありません。またトラクションコントロールシステムは、スピードが出過ぎたまま曲がり角に進入するときや、車体を大きく傾斜させた状態での急な加速、ブレーキ中に起こるトラクションの低下やフロントホイールのスリップを防ぐことができません。他の車と同じように、滑りやすい路面に進入するときは注意して走行し、特に滑りやすい路面の走行はやめてください。

車両の電源をオンにすると、トラクションコントロールシステムは自動的にオンになります。トラクションコントロールシステムのオン、オフは、車両の電源がオンの状態で車両が停車しているときのみ切り替えられます。

要　点

車両が泥や砂、その他のやわらかい路面にはまった際は、トラクションコントロールシステムを OFF にして、後輪の回転制御を停止します。

JCA16801

注 意

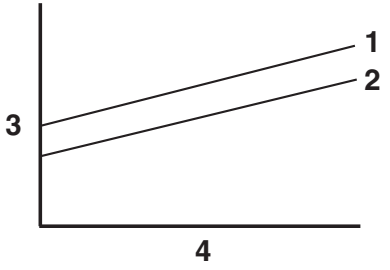
必ず指定タイヤを使用してください。（7-7 ページ参照）指定サイズ以外のタイヤを使用すると、トラクションコントロールシステムはタイヤの回転を正確に制御することができません。

SCS

SCS は、後輪の横すべりを検知したとき、IMU からの情報に基づきエンジン出力を制御します。このシステムは、スムーズな走行をするためにトラクションコントロールシステムを支援します。

EBM

EBM は、減速時にかかるエンジンブレーキを制御します。フューエルインジェクションや点火タイミング、電子スロットルバルブはECUによって電子的に制御されます。トラックや走行条件、運転者の好みに合わせて２つの設定があります。



1. EBM1
2. EBM2
3. エンジンブレーキ制動力
4. エンジン回転数（r/min）

JWA20880

⚠警 告

ギヤをシフトダウンする前に、エンジンが十分に減速していることを確認してください。エンジン回転数が高過ぎる状態でシフトダウンすると、後輪のトラクションが失われる可能性があります。これにより、車両の制御が不能になり、事故や怪我の原因となります。また、エンジンや駆動系を損傷するおそれがあります。

クイックシフター

クイックシフターは、電子制御により、クラッチ操作なしでのシフトチェンジを可能にしています。シフトロッド部にあるセンサーがシフトレバーの動きを検知すると、エンジン出力が調整され、変速が可能になります。

クイックシフターは、クラッチレバーが握られているときは機能しません。クイックシフターがオンになっていても、クラッチレバーを使用した通常の操作が可能です。クイックシフターの状態については、クイックシフター表示を確認してください。

クイックシフターの状態	クイックシフター表示
シフトアップ可能	QS▲▽
シフトダウン可能	QS△▼
シフトアップ可能とシフトダウン可能	QS▲▼
クイックシフター使用不可	QS△▽
クイックシフターオフ	QS

シフトアップ操作の可能な条件

- 車両の速度が 20 km/h 以上
- エンジン回転数が 2100 r/min 以上

シフトダウン操作の可能な条件

- 車両の速度が 20 km/h 以上
- エンジン回転数が 2000 r/min 以上
- エンジン回転数がレッドゾーンより十分に低い

要　点

- QS▲と QS▼は、それぞれ個別に設定できます。
- ギヤをニュートラルにするとき、またはニュートラルから他のギヤへシフトチェンジするときは、クラッチレバーを使用してください。

LIF

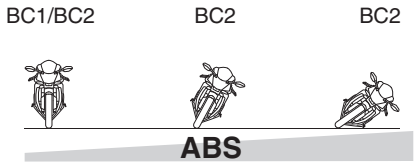
LIF は、発進時やコーナー出口からの加速時に前輪が浮き上がることを抑制します。前輪の浮き上がりを検知すると、エンジン出力を調整し、最適な加速が得られるよう制御します。

BC

BC は、ブレーキ操作によりホイールがロックされたとき、前後輪それぞれのブレーキの油圧を個別に調整します。このシステムは、2 つの設定ができます。

BC1 は、標準の ABS 制御です。走行速度とホイールの回転速度からブレーキ圧を調整します。車が直立した状態でブレーキをかけたとき、最大の効果を得られるように設計されています。

BC2 は、標準の ABS 制御に加え、IMU によるコーナリング時の制動力の調整とホイールスリップの抑制をします。



JWA20891

⚠警 告

ブレーキコントロールは、適切な走行やブレーキ技術に代わるものではありません。過度な速度により制動距離が長くなることや、滑りやすい路面でのスリップを防ぐことはできません。

ERS

オーリンズ（ÖHLINS®）の電子レーシング

サスペンションは、特徴的な対物ベースのチューニングインターフェイス（OBTi）により、簡潔でシチュエーションに特化した設定変更を自動で行うモードを装備しています。加えて、詳細設定が可能な従来式のサスペンション設定を可能にする、マニュアルモードもあります。ERS システムは、前後サスペンションの圧側および伸側のストロークを独立して調整する、SCU により制御されます。オートマチックモードでは、走行状況に基づいてサスペンションの減衰力が調整されます。

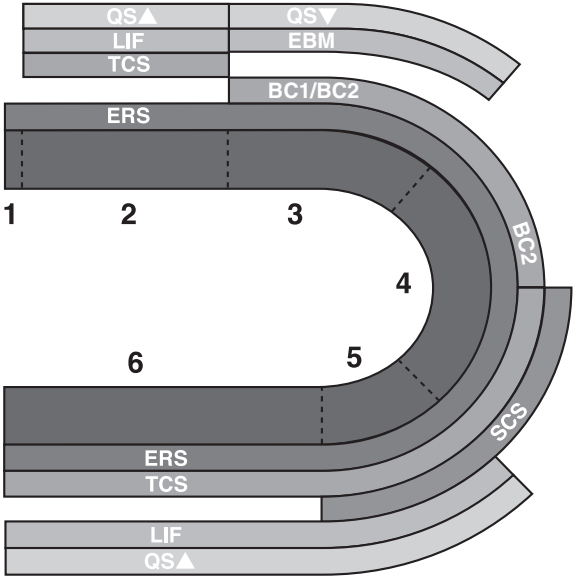
JAU93660

用語集

ABS - アンチロックブレーキシステム
ABS ECU - アンチロックブレーキシステム電子制御ユニット
BC - ブレーキコントロール
EBM - エンジンブレーキマネージメント
ECU - エンジン制御ユニット
ERS - 電子レーシングサスペンション
IMU - 慣性計測装置
LIF - リフトコントロールシステム
PWR - パワーデリバリーモード
SC - スタビリティコントロール
SCS - スライドコントロールシステム
SCU - サスペンション制御ユニット
YRC - ヤマハライドコントロール

JAU66912

YRC ビジュアルガイド



1. スタート
2. 加速
3. ブレーキ操作
4. コーナリング
5. 立ち上がり
6. 直線

JAU94382

クルーズコントロールシステム

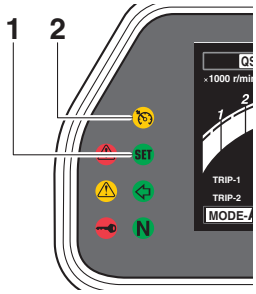
この車は、一定の速度を維持するためのクルーズコントロールシステムを装備しています。

クルーズコントロールシステムは、ギヤが 4 速、5 速、または 6 速で、約 50 km/h ～ 192 km/h の間で走行しているときにのみ作動します。

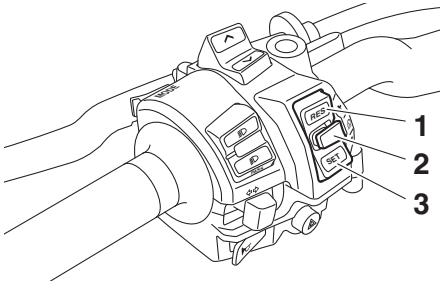
JWA21240

⚠ 警 告

- **法定速度を守って走行してください。**
- **クルーズコントロールシステムを誤って使用すると、制御を失い、事故につながる可能性があります。クルーズコントロールシステムは、交通の激しい場所、悪天候時、カーブの多い道、滑りやすい道、斜面、凹凸のある道、または砂利道などで作動させないでください。**
- **上り坂または下り坂を走行する場合、クルーズコントロールシステムは設定したクルージングスピードを維持できない可能性があります。**
- **クルーズコントロールシステムを誤って作動させないため、使用しないときはスイッチを切ってください。クルーズコントロールシステム表示灯 “ ” が消灯していることを確認してください。**



1. クルーズコントロール設定表示灯 “SET”
2. クルーズコントロールシステム表示灯 “ ”



1. クルーズコントロール /YVSL 設定スイッチ “RES+”
2. クルーズコントロール /YVSL 電源スイッチ “MODE”
3. クルーズコントロール /YVSL 設定スイッチ “SET–”

クルーズコントロールシステムの作動と設定

1. クルーズコントロール /YVSL 電源スイッチ “MODE” を押します。クルーズコントロールシステム表示灯 “ ” が点灯します。
2. クルーズコントロール /YVSL 設定スイッチの “SET–” 側を押して、クルーズコントロールシステムを作動させます。現在の車速がクルージングスピードとして設定され、クルーズコントロール設定表示灯 “SET” が点灯します。

設定したクルージングスピードの調整

クルーズコントロールシステムの作動中、クルーズコントロール /YVSL 設定スイッチの “RES+” 側を押すと、設定したクルージングスピードが増加し、“SET–” 側を押すと設定したクルージングスピードが減少します。

要 点

クルーズコントロール /YVSL 設定スイッチを一度押すごとに、設定スピードが約 1.0 km/h 変化します。設定スイッチを一度長押しするごとに、設定スピードが 10 km/h 変化します。

車速は、スロットルを使用して手動でも増加

することができます。加速した後、クルーズコントロール /YVSL 設定スイッチの “SET–” 側を押すと、新しくクルージングスピードの設定ができます。新しくクルージングスピードの設定をしない場合、スロットルグリップを戻すと、車両は前回設定したクルージングスピードまで減速します。

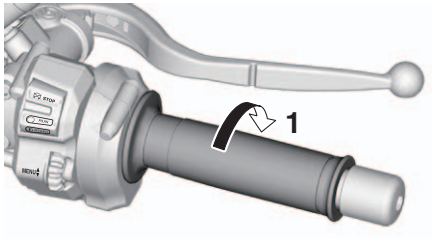
要　点

クルーズコントロールシステムの設定速度は、情報ディスプレイに表示されます。(4-12 ページ参照)

クルーズコントロールシステムの停止

設定したクルージングスピードを取り消すには、次のいずれかの操作を行います。この操作を行うと、クルーズコントロール設定表示灯 “SET” が消灯します。

- スロットルグリップを、全閉位置よりさらに減速方向に回します。



1. 減速方向

- フロントブレーキまたはリヤブレーキをかけます。
- クラッチを切ります。
- ギヤチェンジします。

クルーズコントロール /YVSL 電源スイッチ “MODE” を押して、クルーズコントロールシステムをオフにします。クルーズコントロールシステム表示灯 “” および、クルーズコントロール設定表示灯 “SET” が消灯します。

要　点

クルーズコントロールシステムを停止したとき、スロットルグリップを回さないと、すぐに車速が減少します。

再開機能の使用方法

クルーズコントロールシステムを再び作動させるには、クルーズコントロール /YVSL 設定スイッチの “RES+” 側を押します。車速が前回設定したクルージングスピードに戻り、クルーズコントロール設定表示灯 “SET” が点灯します。

JWA16351

⚠警　告

前回設定したクルージングスピードが現在の走行状況に対して速すぎる場合、再開機能を使用することは危険です。

要　点

システムの作動中にクルーズコントロール / YVSL 電源スイッチ “MODE” を押すと、システムは完全にオフになり、前回設定したクルージングスピードが消去されます。再開機能は、新しくクルージングスピードを設定するまで使用できません。

クルーズコントロールシステムの自動停止

このモデルのクルーズコントロールシステムは電子制御されており、その他のコントロールシステムとリンクされています。クルーズコントロールシステムは、以下の条件

で自動的に停止します。
- クルーズコントロールシステムが、設定したクルージングスピードを維持できない場合。
- ホイールのスリップまたはホイールのスピンが検出された場合。（トラクションコントロールシステムをオフにしていない場合は、トラクションコントロールシステムが作動します。）
- スターター/ エンジンストップスイッチを“⊠”にした場合。
- エンジンがストール（エンスト）した場合。
- サイドスタンドが下げられた場合。

設定したクルージングスピードで走行している場合は、クルーズコントロールシステムが上記の条件で停止すると、クルーズコントロールシステム表示灯“”は消灯し、クルーズコントロール設定表示灯“SET”は 4 秒間点滅してから消灯します。

設定したクルージングスピードで走行していない場合は、スターター / エンジンストップスイッチを“⊠”にしたり、エンジンがストール（エンスト）したり、またはサイドスタンドが下げられると、クルーズコントロールシステム表示灯“”が消灯します。（クルーズコントロール設定表示灯“SET”は点滅しません）。

クルーズコントロールシステムが自動的に停止した場合は、停車してから車両が運転に適した状態であることを確認してください。クルーズコントロールシステムを再び作動させるには、クルーズコントロール /YVSL 電源スイッチ“MODE”を使用してください。

要　点

上り坂または下り坂を走行する際、クルーズコントロールシステムは場合により、設定したクルージングスピードを維持できない可能性があります。
- 上り坂を走行する場合、実際の車速は設定したクルージングスピードを下回る可能性があります。この場合は、スロットルを使用して必要な車速まで加速してください。
- 下り坂を走行する場合、実際の車速は設定したクルージングスピードを上回る可能性があります。この場合、設定スイッチを使用して設定済のクルージングスピードを調節することはできません。車速を落とすにはブレーキ操作が必要ですが、ブレーキをかけるとクルーズコントロールシステムは停止します。

JAU93493

YVSL（ヤマハバリアブルスピードリミッター - 自己車速制限制御）

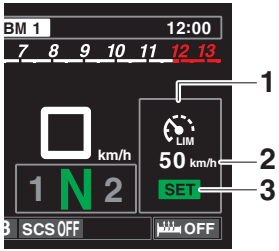
このモデルには、走行時の最高速度を制限する、YVSL が装備されています。

50 km/h から 192 km/h での間で設定できます。設定した制限速度に達すると、車両が設定速度を超えないようにエンジン出力が制御されます。

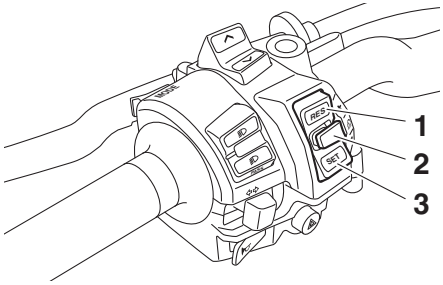
JWA21200

⚠ 警 告

- **YVSL を誤って使用すると、制御を失い、事故につながる可能性があります。YVSL は、交通の激しい場所、悪天候時、カーブの多い道、滑りやすい道、斜面、凹凸のある道、または砂利道などで作動させないでください。**
- **上り坂または下り坂を走行する場合、または急加速を行った場合は、YVSL は設定した制限速度を維持できない可能性があります。**
- **YVSL を誤って作動させないため、使用しないときはスイッチを切ってください。YVSL 表示が消灯していることを確認してください。**



1. YVSL 表示
2. 速度設定表示
3. YVSL セット表示アイコン “SET”



1. クルーズコントロール /YVSL 設定スイッチ “RES+”
2. クルーズコントロール /YVSL 電源スイッチ “MODE”
3. クルーズコントロール /YVSL 設定スイッチ “SET–”

要　点

YVSL は、下り坂を走行しているときや急加速しているとき、またはギアシフトの直後は設定速度を維持できないことがあります。

- 設定した制限速度を 5km/h 以上で 3 秒以上経過すると、速度が制限内に低下するまで YVSL セット表示アイコン “SET” が点滅します。
- 設定した制限速度を超えた場合は、ブレーキをかけてください。

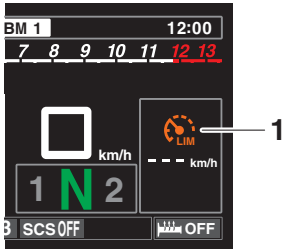
YVSL を解除すると、エンジン出力の制限が徐々に解除され、通常のスロットル操作ができます。

YVSL の作動と設定

1. ハンドルバー（左）のクルーズコントロール /YVSL 電源スイッチ “MODE” を押します。クルーズコントロールシステム表示灯 “” が点灯します。
2. クルーズコントロール /YVSL 電源スイッチ “MODE” をもう一度押すと、YVSL 待機モードに切り替わります。燃料計（トラックモードではギヤポジション表示）は、YVSL セット表示アイコン “SET” と速度設定表示の YVSL 表示に切り替わります。
3. クルーズコントロール /YVSL 設定スイッチの “SET–” 側を押して、YVSL を作動させます。YVSL セット表示アイコン “SET” が点灯し、制限速度が現在の車速に設定され、YVSL 速度設定表示に表示されます。

要　点

- クルーズコントロールシステムが作動中に、クルーズコントロール設定表示灯 “SET” が点灯しているときにクルーズコントロール /YVSL 電源スイッチ “MODE” を押すと、YVSL 待機モードに切り替わります。
- クルーズコントロールシステムと YVSL コントロールシステムの両方を同時に作動させることはできません。
- 速度設定表示アイコンの色が変わって点滅する場合は、ヤマハ販売店に点検を依頼してください。



1. 速度設定表示アイコン

制限速度の設定

YVSL の作動中、クルーズコントロール / YVSL 設定スイッチの “RES+” 側を押すと、設定した制限速度が増加し、“SET–” 側を押すと設定した制限速度が減少します。

要　点

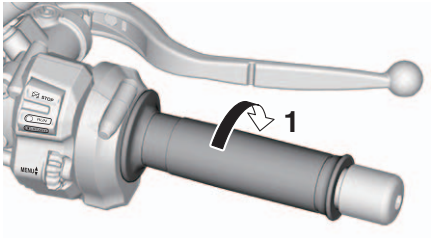
設定スイッチを一度押すごとに、設定スピードが約 1.0 km/h 変化します。設定スイッチを一度長押しするごとに、設定スピードが 10 km/h 変化します。

YVSL の解除

YVSL が解除されると、エンジン出力制限が解除され、通常のスロットル操作ができます。

YVSL を解除するには、次のいずれかの操作を行います。

- スロットルグリップを、全閉位置よりさらに減速方向に回します。YVSL セット表示アイコン “SET” が消え、システムは待機モードに戻ります。



1. 減速方向

- ハンドルバー（左）のクルーズコントロール /YVSL 電源スイッチ “MODE” を押します。YVSL 表示が消え、燃料計（トラックモードのギヤポジション表示）に戻ります。

YVSL 再開機能の使用方法

待機モード中に YVSL を再び作動させるには、クルーズコントロール /YVSL 設定スイッチの “RES+” 側を押します。制限速度が前回設定した制限速度に戻ります。YVSL セット表示アイコン “SET” が点灯します。

JWA21210

⚠ 警 告

前回設定した制限速度が現在の走行状況に対して遅すぎる場合、再開機能を使用することは危険です。

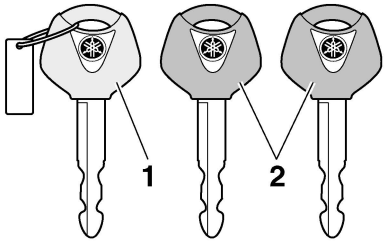
要　点

YVSL の作動中にクルーズコントロール / YVSL 電源スイッチ “MODE” を押すと、YVSL システムは完全にオフになり、前回設定した制限速度が消去されます。再開機能は、新たに制限速度を設定するまで使用できません。

JAU33073

キーの取り扱い

マスコット部が赤いメインキーが1本とマスコット部が黒いサブキーが2本あります。メインキーはサブキーの ID を登録するときに必要な大切なキーですので、普段は車の操作には使用しないでください。車の操作には、必ずサブキーを使用してください。



1. メインキー（赤）
2. サブキー（黒）

JCA12773

注 意

キーを取り扱うときには、下記の内容を必ず守ってください。

- メインキーは大切に保管し、紛失しないよう注意してください。メインキーを紛失するとイモビライザーユニットにサブキーのIDを登録することができなくなります。また、3 本のキー全てを紛失した場合は、イモビライザーシステムの構成部品全てを交換しなければなりません。
- キーを水に浸けないでください。
- キーを高温になる場所に置かないでください。
- キーに磁気を帯びたものを近づけないでください。
- キーに電波を発信するものを近づけないでください。
- キーを落として強い衝撃を与えたり、重いものを載せたりしないでください。
- キーを削ったり、穴を開けたりして形状を変えないでください。
- キーを分解しないでください。
- 複数のイモビライザーキー（この車のキーも含みます。）を同じキーリングにつけたり、メインスイッチに他のイモビライザーシステムを近づけたりしないでください。ID の認識を妨げ、エンジンの始動ができなくなることがあります。
- 金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーや他のキーがカバーなどの部品に当たり、傷付きの原因となる場合があります。キーホルダーは、布製または皮製のものをお勧めします。

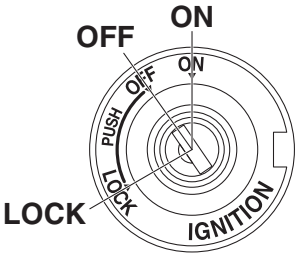
JAU26895

イモビライザーシステム

この車には、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。イモビライザーシステムとは、メインキーおよびサブキーにトランスポンダ（固有の ID を持った発信機）を内蔵しており、あらかじめ車両本体のイモビライザーユニットに登録された ID のキー以外ではエンジンの始動ができないようにしたシステムです。（詳細は 4-8 ページを参照してください。）

JAU10462

メインスイッチ



メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入 / 切」、ハンドルロックを行います。

JWA11621

⚠警 告

走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JCA11972

注 意

エンジンをかけないでメインスイッチを ON のままにしたり、エンジン始動後アイドリング状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。

要 点

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

JAU90040

ON

全ての電気回路に電源が供給され、メーター灯、テールランプ、ナンバー灯とマーカーランプが点灯し、エンジンを始動させることができます。キーを抜き取ることはできません。

要 点

- エンジンが始動すると、ヘッドライトが自動的に点灯します。エンジンが止まっても車両の電源をオフにするまで点灯し続けます。
- スタータースイッチを押して、エンジンが始動しないときにもヘッドライトが点灯することがありますが、異常ではありません。

JAU46011

OFF

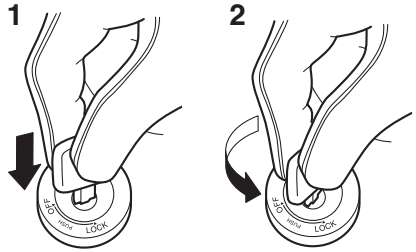
全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

JAU73803

LOCK

ハンドルがロックされ、全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

ハンドルロックのしかた



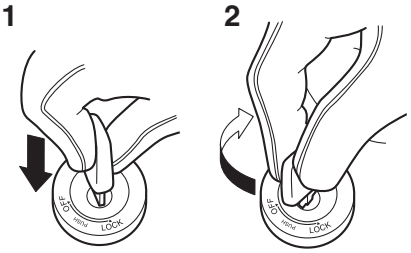
1. 押す
2. 回す

1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。
2. OFF の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。
3. キーを抜きます。

要　点

ロックしにくいときは、ハンドルを少し右に動かしながらキーを回します。

ハンドルロックの解除のしかた



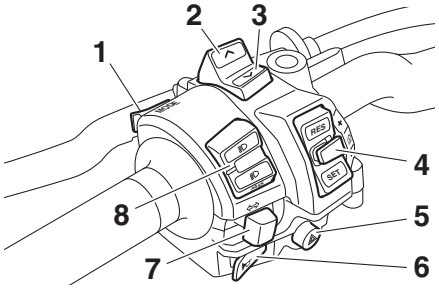
1. 押す
2. 回す

キーを押し込み、そのまま OFF まで回します。

JAU66058

ハンドルスイッチ

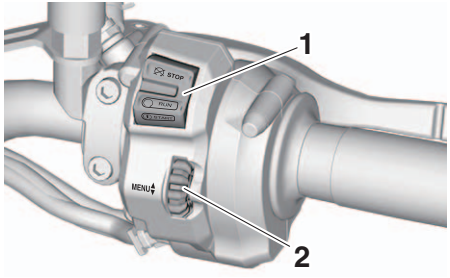
<左>



1. モードスイッチ “MODE”
2. MODE アップ “ ” スイッチ
3. MODE ダウン “ ” スイッチ
4. クルーズコントロール /YVSL スイッチ
5. ハザードスイッチ “ ”
6. ホーンスイッチ “ ”
7. 方向指示器スイッチ “ / ”
8. ヘッドライト上下切り替え / パッシングライトスイッチ “ / /PASS”

4

<右>



1. スターター／エンジンストップスイッチ “⊠/◠/(≋)”
2. ホイールスイッチ “MENU▲▼”

JAU91630

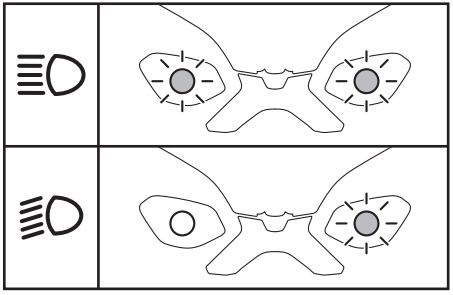
ヘッドライト上下切り替え／パッシングライトスイッチ “≡D/≡D/PASS”

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えたり、パッシング（スイッチを押している間、ヘッドライトの上向きも点灯）させるスイッチです。

また、ラップタイマーを使用している場合は、ラップタイムの計測を開始します。

≡D（上向き）：遠くを照らします。

≡D（下向き）：近くを照らします。



ヘッドライトの配光が下向きのときに “PASS” 側を押すと、ヘッドライトの上向きも点灯します。先行車の追い越しなどで、他車に合図をするときに使用します。

要　点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。

JAU85490

方向指示器スイッチ “⇦/⇨”

進路変更の合図に使用します。

操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。

消灯するときは、スイッチを押します。

⇨：右側の方向指示灯が点滅します。

⇦：左側の方向指示灯が点滅します。

JWA11641

⚠警　告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JAU66030

ホーンスイッチ “📯”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要　点

必要なときにのみ使用してください。

JAU94790

スターター／エンジンストップスイッチ “⊠/◠/(≋)”

スターターでエンジンを始動するには、このスイッチを “◠” に合わせてから、スイッチを “(≋)” まで押してください。エンジンを始動させる前に、6-1 ページの始動手順を参照してください。

転倒などの非常時に、エンジンをすぐに停止させるには “⊠” にします。通常は “◠” にしておきます。“⊠” にすると、エンジンは始動できません。

JAU91670

ハザードスイッチ “⚠”

車両の電源をオンにした状態で、このスイッチを使用してハザードランプを点滅させます。（全ての方向指示器が点滅します。）

ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。

ハザードランプは、車両の電源をオンにした状態のみでオンとオフを切り替えることができます。車両の電源をオフ、または LOCK にしてもハザードランプは点滅し続けます。

ハザードランプを消灯させるには、車両の電源をオンにした状態で、ハザードスイッチを再度操作してください。

JCA11891

注 意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

JAU94151

クルーズコントロール /YVSL スイッチ

クルーズコントロールシステムの説明については、3-6 ページを参照してください。

YVSL の説明については、3-8 ページを参照してください。

JAU93611

“MODE” セレクトスイッチ

メイン画面から YRC モードを変更したり、PWR、TCS、SCS、ERS の設定を変更するには、モードスイッチ “MODE”、MODE アップ “∧” スイッチ、MODE ダウン “∨” スイッチを使用します。

MODE アップ “∧” スイッチ－このボタンを押して、選択したモード設定を繰り上げます。

“MODE” －このボタンを押して、MODE、PWR、TCS、SCS、ERS の各設定変更をメイン画面で行うことができます。

MODE ダウン “∨” スイッチ－このボタンを押して、選択したモード設定を繰り下げます。

要　点

- トラクションコントロールシステムは、メイン画面からのみオフにすることができます。オフにするには、モードスイッチ “MODE” を押して TCS を選択し、TCS OFFが表示されるまでMODEアップ“∧”スイッチを長押しします。トラクションコントロールシステムを再びオンにするには、MODE ダウン “∨” スイッチを押します。
- トラクションコントロールシステムをオフにすると、SCS、LIF システムも、すべての YRC モードでオフになります。
- YRCモードのカスタマイズやYRC項目の設定値の調整についての詳細は、4-19 ページ “YRC 設定 ” の項目を参照してください。

JAU66100

ホイールスイッチ “MENU▲▼”

メイン画面が STREET MODE にセットされているときは、ホイールスイッチで情報ディスプレイのスクロールをしたり、表示項目のリセット操作を行ったりできます。

メイン画面が TRACK MODE にセットされているときは、ホイールスイッチで情報ディスプレイのスクロール、表示項目のリセット操作を行ったり、ラップタイマーを有効化することができます。

表示がメニュー画面のときは、ホイールスイッチで設定項目を移動させたり、設定の変更を行ったりできます。

ホイールスイッチは、次のとおり操作します。

上に回す - ホイールを上方向に回すと、上もしくは左方向に移動させたり、設定の値を増加させたりできます。

下に回す - ホイールを下方向に回すと、下も

しくは右方向に移動させたり、設定の値を減少させたりできます。

短押し - 短くスイッチを押し込むと、選択した内容を確定できます。

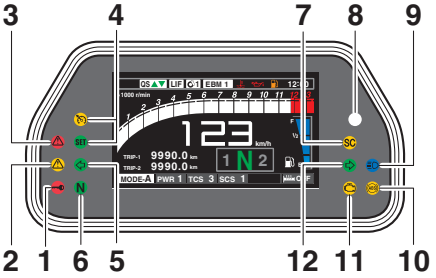
長押し - 1 秒以上スイッチを押し込むと、表示項目をリセットし、メニュー画面へ戻ることができます。

要　点

- メイン画面と機能についての詳細は、4-9 ページをご参照ください。
- メニュー画面と設定の変更についての詳細は、4-18 ページをご参照ください。

JAU4939Y

警告灯と表示灯



1. イモビライザーシステム表示灯 “”
2. 補助システム警告灯 “”
3. 油圧・水温警告灯 “”
4. クルーズコントロール表示灯 “”/“SET”
5. 方向指示器表示灯（左）“”
6. ニュートラルランプ “N”
7. スタビリティコントロール表示灯 “SC”
8. シフトタイミングインジケーターランプ “○”
9. ヘッドライト上向き表示灯 “”
10. ABS 警告灯 “”
11. エンジン警告灯 “”
12. 方向指示器表示灯（右）“”

JAU88280

方向指示器表示灯 “”/“”

方向指示器に合わせて点滅します。

JAU88300

ニュートラルランプ “N”

ギヤがニュートラルのとき点灯します。

JAU88310

ヘッドライト上向き表示灯 “”

ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

JAU91650

クルーズコントロール表示灯 “”/“SET”

これらの表示灯は、クローズコントロールシステムが有効になると点灯します。（3-6 ページ参照）

要　点

車両の電源をオンにしたとき、これらの表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。点灯しない場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU88331

エンジン警告灯 “”

エンジン異常が発生したとき、警告灯が点灯します。警告灯が点灯したときは、ヤマハ販売店で車載故障診断装置の点検を受けてください。

要　点

車両の電源をオンにすると、警告灯が数秒間

点灯し、その後消灯します。警告灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JCA26820

注 意

エンジン警告灯が点滅したときは、低速で走行してください。マフラーの中の触媒装置が損傷する可能性があります。

要 点

このエンジンは自己診断機能により繊細に監視され、排気ガス制御システムの劣化や故障を検知します。そのため、改造、整備不良や不適切な車両の使用により、エンジン警告灯が点灯する場合があります。故障以外の原因による警告灯の点灯を避けるために、以下のことを守ってください。

- エンジンコントロールユニットのソフトウェアを書き換えないでください。
- エンジンコントロールユニットに影響を与えるような電装アクセサリーを使用しないでください。
- 標準仕様以外のスパークプラグ、フューエルインジェクターを使用したり、サスペンション、排気系などの社外アクセサリーを使用したりしないでください。
- ドライブチェーン、スプロケット、ホイール、タイヤなどの仕様を変更しないでください。
- O2 センサー、エアインダクションシステム、触媒や EXUP などの排気系部品を外したり、改造したりしないでください。
- ドライブチェーンを正しくメンテナンスしてください。
- タイヤの空気圧を正しくメンテナンスしてください。
- ブレーキペダルの高さを正しくメンテナンスして、リアブレーキを引きずらないようにしてください。
- スロットルグリップの開閉を過度に繰り返す、バーンアウト、ウィーリーや、半クラッチの多用などの行為はしないでください。

JAU91500

ABS 警告灯 “ABS”

車両の電源をオンにしたとき、警告灯が点灯し、走行すると消灯します。走行中に ABS 警告灯が点灯したときは、ABS が正しく作動していないおそれがあります。

要 点

警告灯が点灯しなかったり、走行中に警告灯が点灯する場合は直ちにヤマハ販売店で車両の点検を受けてください。

JWA21120

⚠警 告

5 km/h以上の速度で走行しても警告灯が消灯しない、または走行中に警告灯が点灯したとき：

- **急ブレーキなどでホイールがロックしないよう、慎重にブレーキをかけてください。**
- **直ちにヤマハ販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。**

JAU67434

シフトタイミングインジケーターランプ “○”

このインジケーターは、シフトアップのタイミングをお知らせします。インジケーターが点灯または消灯するエンジン回転数は、お好みの回転数に設定することができます。（4-25 ページ参照）

要 点

車両の電源をオンにしたとき、インジケーターランプが数秒間点灯し、その後消灯します。インジケーターランプが全く点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、

ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU88350

イモビライザーシステム表示灯 “ ”

この車は、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。車両の電源をオフにすると、イモビライザーシステムが機能し、約 30 秒間経過するとイモビライザーシステム表示灯が点滅を始めます。約 24 時間経過すると表示灯は消えますが、イモビライザーシステムは機能しています。

要　点

車両の電源をオンにしたとき、表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。表示灯が全く点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

イモビライザーキーの認証エラー

イモビライザーシステム表示灯が、ゆっくり 5 回、すばやく 2 回の点滅を繰り返すときは、キーの ID の認証が妨げられた可能性があります。この場合は、次のことを試してみてください。

1. 他のイモビライザーキーがメインスイッチの近くにないことを確認します。
2. メインキーでエンジンを始動します。
3. エンジンが始動したら、エンジンを止め、サブキーで始動できるか確認します。
4. エンジンの始動ができないキーがあった場合には、車と 3 本全てのキーを持って、ヤマハ販売店でキーの再登録を受けてください。

JAU88391

スタビリティコントロール表示灯 “SC”

トラクションコントロールシステム、SCS、または LIF が作動すると、この表示灯が点灯します。また、トラクションコントロールシステムがオフの場合や、走行中にトラクションコントロールシステムが無効になった場合にも点灯します。

要　点

車両の電源をオンにすると、表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。表示灯が全く点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU88362

油圧・水温警告灯 “ ”

エンジン油圧が低い、もしくはエンジン冷却水温が高いときに、この警告灯が点灯します。この場合、エンジンをすぐに停止してください。

要　点

- 車両の電源をオンにしたとき、警告灯が点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- 異常が発生したとき、警告灯が点灯し、油圧警告アイコンが点滅します。

JCA22441

注 意

油圧・水温警告灯がエンジン始動後に消灯しない場合や、走行中に点灯した場合は、すぐに停車してエンジンを停止してください。

- **エンジンがオーバーヒートしているときは、水温警告アイコンが点灯します。エンジンを冷ましてください。また、冷却水量を点検してください。(7-4 ページを参照)**
- **エンジンオイルの油圧が低いときは、油圧警告アイコンが点灯します。オイル量を点検してください。(7-2 ページを参照)**
- **エンジン冷却後やオイル補充後にも警告灯や警告アイコンが点灯したままの場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。点検を受けないまま、引き続き車両を運転しないでください。**

JAU88370

補助システム警告灯 “⚠”

エンジン以外のシステムに異常が発生したとき、警告灯が点灯します。

要　点

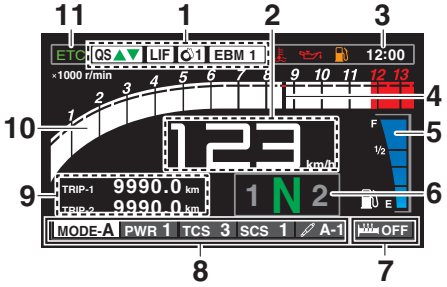
車両の電源をオンにすると、警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。警告灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU93593

ディスプレイ

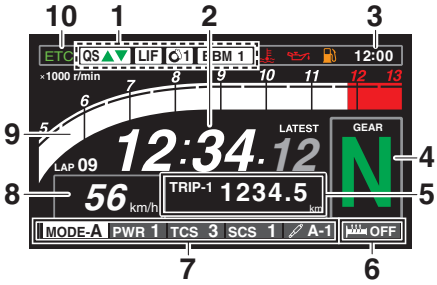
ディスプレイには、ストリートモード（STREET　MODE）とトラックモード（TRACK MODE）の 2 種類があります。ほとんどの機能は同じですが、レイアウトが多少異なります。ディスプレイには、次の項目があります。

ストリートモード



1. YRC 項目 QS/LIF/BC/EBM
2. スピードメーター
3. 時計
4. 最大回転数ホールド表示
5. 燃料計
6. ギヤポジション表示
7. グリップウォーマーアイコン (オプション)
8. YRC 項目 MODE/PWR/TCS/SCS/ERS
9. 情報ディスプレイ
10. タコメーター
11. ETC 表示 “ETC” (オプション)

トラックモード



1. YRC 項目 QS/LIF/BC/EBM
2. ラップタイマー
3. 時計
4. ギヤポジション表示
5. 情報ディスプレイ
6. グリップウォーマーアイコン (オプション)
7. YRC 項目 MODE/PWR/TCS/SCS/ERS
8. スピードメーター
9. タコメーター
10. ETC 表示 “ETC” (オプション)

JWA18210

⚠ 警　告

設定変更をする前に、必ず車両を停止してください。走行中に設定の変更を行うと、操作に気をとられて事故を起こすおそれがあります。

要　点

- このモデルは TFT LCD により、様々な光源下での良好なコントラストおよび見易さを実現しています。しかし、場合によっては少し見えにくい部分が出ることもあります。
- 表示単位はキロメートルとマイルの間で切り替えることができます。（4-24 ページ参照）

スピードメーター

スピードメーターは、現在の車速を表示します。走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。

タコメーター

タコメーターは、毎分のエンジン回転数を表示します。

要　点

- トラックモードでは、タコメーターは 5000 r/min 以上を表示します。
- ストリートモードでは、タコメーターは色の調整ができるほか、オン / オフ可能な最大回転数ホールド表示があります。

JCA10032

注 意

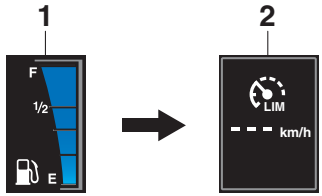
タコメーターの指針がレッドゾーンに入らないようにしてください。
レッドゾーン : 11800 r/min 以上

燃料計

メインスイッチをONにするとフューエルタンクのガソリンの残量を表示します。ガソリンの残量が減ると燃料計のセグメントが “F”（満）から “E”（空）方向に消えていきます。最後のセグメントが点滅を始めたり、燃料残量警告アイコンが表示されたら、速やかに給油してください。

要　点

- 全てのセグメントが繰り返し点滅する場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。
- ヤマハ可変スピード制御（YVSL）がストリートモードで作動している場合、燃料計は YVSL 表示に切り替わります。（3-8 ページ参照）



1. 燃料計
2. YVSL 表示

時計

この時計は 12 時間表示です。

ギヤポジション表示

ギヤが何速に入っているかを表示します。このモデルは、ニュートラルと 6 段変速です。ニュートラル位置は、ニュートラルランプ “N” と、ギヤポジション表示 “N” により表示されます。

要　点

トラックモードで YVSL を作動している場合は、ギヤポジション表示は YVSL 表示に切り替わります。（3-8 ページ参照）

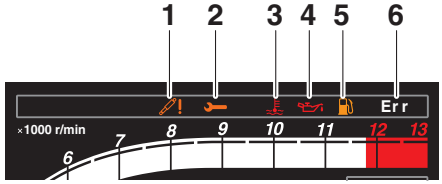


1. ギヤポジション表示
2. YVSL 表示

最大回転数ホールド表示

タコメーターに短い棒が一時的に現れ、直近の最高エンジン回転数を示します。

警告アイコン



1. SCU 警告アイコン “ ”
2. 補助システム警告アイコン “ ”
3. 水温警告アイコン “ ”
4. 油圧警告アイコン “ ”
5. 燃料残量警告アイコン “ ”
6. エラーモード警告アイコン “Err”

異常が検知されると、以下の警告アイコンが表示されます。

SCU トラブル警告アイコン “ ”

前後サスペンションに異常が検知されると、この警告アイコンが表示されます。

補助システム警告アイコン “ ”

エンジン以外のシステムに異常が検知されると、この警告アイコンが表示されます。

水温警告アイコン “ ”

エンジン冷却水温が高いときにこの警告アイコンが表示されます。車両を停止させてエンジンをオフにし、エンジンを冷やしてください。

JCA10022

注 意

エンジンがオーバーヒートした場合、エンジンの使用を続けないでください。

油圧警告アイコン “ ”

エンジン運転中に油圧が低下すると、このアイコンが表示されます。車両の電源をオンにしたときは、エンジン油圧が掛かっていないため、エンジンを始動するまでこのアイコンが点灯します。

要 点

異常が検知されると、この警告アイコンが繰り返し点滅します。

JCA26410

注 意

油圧が低下している場合、エンジンの使用を続けないでください。

燃料残量警告アイコン “ ”
タンク内の燃料残量がおよそ 4.0 L になると、このアイコンが表示されます。

エラーモード警告アイコン “Err”
内部エラーが発生すると、次のとおりエラーモード表示が現れます。
“Err” と “ ” は、ECU のエラーを示します。
“Err” と “ ” は、SCU のエラーを示します。
“Err” のみは、ABS ECU のエラーを示します。

要　点

エラーの状態によっては、ディスプレイは正しく機能せず、YRC の設定も変更できないことがあります。また、ABS が正しく作動していない場合があります。ブレーキを使用するときは、十分に注意し、直ちにヤマハ販売店で点検を受けてください。

情報ディスプレイ
情報ディスプレイの項目は、次のとおりです。
A.TEMP: 気温
C.TEMP: 冷却水温
TRIP-1: トリップメーター 1
TRIP-2: トリップメーター 2
F-TRIP: フューエルトリップメーター
ODO: オドメーター
“ ”: クルーズコントロール速度設定
FUEL AVG: 平均燃料消費量
CRNT FUEL: 瞬間燃料消費量
FUEL CON: 燃料消費量

要　点

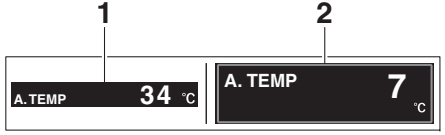
TRIP-1、TRIP-2、F-TRIP、FUEL CON、FUEL AVG の各項目は、個別にリセットできます。

表示項目は、カスタマイズ可能な 4 つのペア (DISPLAY-1 ～ 4) にグループ化されます。トラックモードでは、一度に 1 つの項目しか表示できません。(4-28 ページ参照)
ホイールスイッチを回すと、次の順序で表示が切り替わります。
ストリートモード： → DISPLAY-1 → DISPLAY-2 → DISPLAY-3 → DISPLAY-4 → グリップウォーマー機能 →
トラックモード： → FASTEST → AVERAGE → グリップウォーマー機能 → DISPLAY-1 → DISPLAY-2 → DISPLAY-3 → DISPLAY-4 →

要　点

グリップウォーマー機能は、装備されている場合にのみ表示されます。(4-15 ページ参照)

気温：



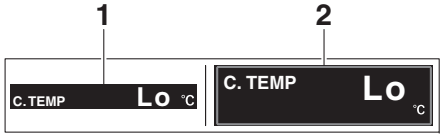
1. ストリートモードでの表示
2. トラックモードでの表示

–9°C から 50°C の気温を 1°C 刻みで表示します。表示される気温は、外気温と一致していない場合があります。

要　点

- 検出した気温が–9°Cより低い場合は“--”が表示されます。
- 検出した気温が 50°C より高い場合は “--” が表示されます。

冷却水温：



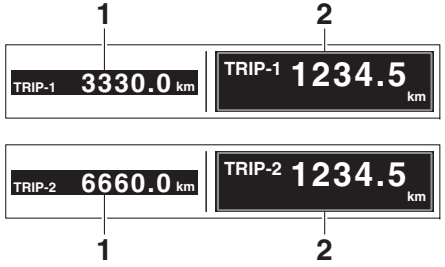
1. ストリートモードでの表示
2. トラックモードでの表示

41℃から124℃の冷却水温を1℃刻みで表示します。

要　点

- 冷却水温が41℃未満の場合、“Lo”が表示されます。
- 冷却水温が124℃以上の場合、“Hi”が表示されます。

トリップメーター：



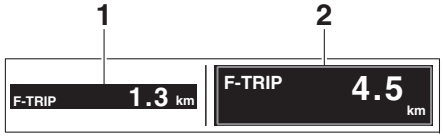
1. ストリートモードでの表示
2. トラックモードでの表示

TRIP-1 と TRIP-2 は最後にリセットした地点からの走行距離を表示します。

要　点

TRIP-1 と TRIP-2 は 9999.9 までカウントを続け、その後リセットされます。

フューエルトリップメーター：



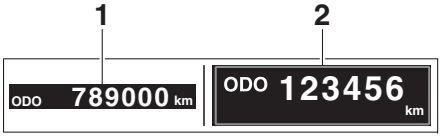
1. ストリートモードでの表示
2. トラックモードでの表示

燃料タンクの残量が少なくなると、F-TRIPが自動的に表示され、その時点からの走行距離を表示します。
給油後、一定距離を走行すると、F-TRIP は自動的に消灯します。

要　点

F-TRIP 表示中は MENU にアクセスできません。F-TRIP 表示中にメニューにアクセスするには、最初にホイールスイッチを使用して情報ディスプレイを別の項目に切り替えます。

オドメーター：



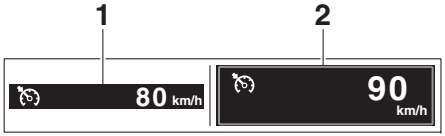
1. ストリートモードでの表示
2. トラックモードでの表示

オドメーターは、走行した総距離を表示します。

要　点

オドメーターは、999999 で固定され、リセットできません。

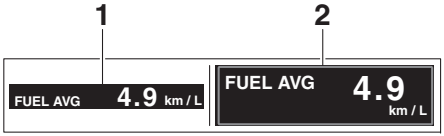
クルーズコントロール速度設定：



1. ストリートモードでの表示
2. トラックモードでの表示

クルーズコントロールシステムで設定した速度を表示します。クルーズコントロールシステムの説明については、3-6 ページを参照してください。

平均燃料消費量：



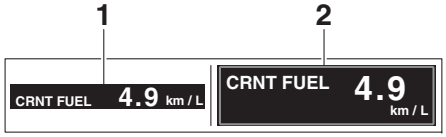
1. ストリートモードでの表示
2. トラックモードでの表示

平均燃料消費量表示は　“km/L”　または “L/100km” に設定できます。（4-24 ページ参照）

要　点

平均燃料消費量表示をリセットすると、1km 走行するまで “--.-” が表示されます。

瞬間燃料消費量 :



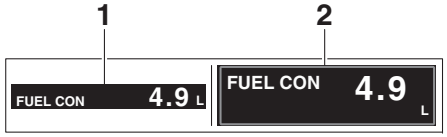
1. ストリートモードでの表示
2. トラックモードでの表示

瞬間燃料消費量表示は “km/L” または “L/100km” に設定できます。(4-24 ページ参照)

要 点

10 km/h 未満で走行している場合は、“--.-” と表示されます。

燃料消費量 :



1. ストリートモードでの表示
2. トラックモードでの表示

トリップメーターが最後にリセットされてから消費された燃料の量を表示します。

要 点

燃料消費機能は、通常走行時の参考としてご使用ください。この数値で、現在の燃料残量での走行可能距離を推定しないでください。

情報ディスプレイ項目のリセット

1. ホイールスイッチを用いて、リセットしたい表示項目が現れるまで画面をスクロールします。
2. ストリートモード : ホイールスイッチを短押しすると、選択項目が約 5 秒間点滅します。どの項目もリセット可能な場合、一番上の項目がはじめに点滅します。下の項目を選択するには、下にスクロールします。
   トラックモード : ホイールスイッチを短押しすると、選択項目が約 5 秒間点滅します。
3. 項目が点滅している間に、ホイールスイッチを長押しすると項目がリセットされます。

グリップウォーマーアイコン (オプション)

グリップウォーマーは、エンジン始動中にのみ使用できます。設定には 10 段階あり、温度設定を 3 つ登録できます。(4-29 ページ参照)

現在設定を、“OFF” またはセグメント (LO/MIDDLE/HIGH) を表示します。

グリップウォーマーの使用方法

1. グリップウォーマーを使用するには、ホイールスイッチを回しグリップウォーマーアイコンにカーソルを合わせます。
2. ホイールスイッチを短押しすると、グリップウォーマーアイコンが点滅し始めます。
3. ホイールスイッチを回し、登録した温度

を選択します。
4. 温度を選択し、ホイールスイッチを短押しすると、グリップウォーマーアイコンの点滅が止まります。

JCA17932

注 意

- **グリップウォーマーを使用するときは、必ずグローブを着用してください。**
- **暖かい日は、グリップウォーマーを使用しないでください。**
- **ハンドルバーグリップまたはスロットルグリップが摩耗したり破損したりした場合は、グリップウォーマーの使用を止め、グリップを交換してください。**

ETC 表示 “ETC”（オプション）

ETC 車載器を接続すると、車載器の状態が表示されます。
車載器が利用できる時は緑色、利用できない時は赤色で “ETC” が表示されます。

YRC アイコン

現在のモード（YRC モード）と、関連する設定がメイン画面の上部と下部にあるさまざまなアイコンに表示されます。
YRC 項目（PWR、TCS、SCS、QS “▲”、QS “▼”、LIF、EBM、BC “”、ERS）は、4 つのモード（MODE-A、MODE-B、MODE-C、MODE-D）に分けられます。これらは、YRC 設定メニューからカスタマイズできます。（4-19 ページ参照）

要 点

- メイン画面下部に表示される YRC 設定（PWR、TCS、SCS、ERS）は、メイン画面とは別に調整できます。
- メイン画面上部に表示される YRC 設定（QS “▲”、QS “▼”、LIF、BC “”、EBM）はメイン画面から調整することはできません。これらの値を変更するには、YRC 設定メニューから変更します。（4-19 ページ参照）
- LIF アイコンは作動 / 停止としてのみ表示されますが、YRC 設定メニューで調整ができます。
- BC“”および EBM アイコンは、作動 / 停止と現在の設定レベルの両方を示します。

YRC モードは、工場出荷時には乗車状況ごとに、異なる設定になっています。工場設定を使用する場合、推奨される YRC モードは次の通りです。
MODE-A: トラック走行に最適な設定です。
MODE-B: ソフトなトラック走行向けの設定です。
MODE-C: 一般走行に最適な設定です。
MODE-D: ツーリングや雨天時向けの設定です。

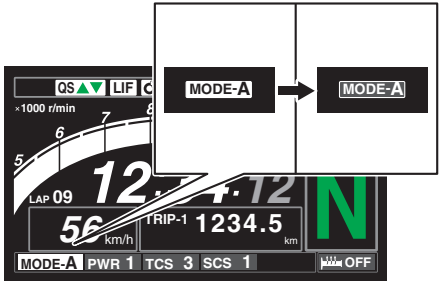
YRC モードの切り替えおよび設定の変更

1. モードスイッチ “MODE” で左右にスクロールし、調整したい項目をハイライトさせます。
2. MODE アップ “” スイッチまたは MODE ダウン “” スイッチを使用して、選択した項目の値を変更します

要 点

- エンジン警告灯 “”、補助システム警告灯 “”、または水温警告アイコン “” が点灯している場合、YRC 設定は調整できません。
- SCU トラブル警告アイコン “” が点灯している場合は、ERS は調整できません。
- YRC 機能が作動している場合、その項目は調整できません。例えば、減速中は PWR を調整できません。
- YRC 項目がハイライトされていても調整されないときは、YRC 項目のボックスが黒に戻ります。
- ERS インジケーターから ERS モード表示

が消えた（アイコンが空欄になった）ときは、モードが再表示されるまで、停車して数秒お待ちください。



トラクションコントロールシステムの停止

トラクションコントロールシステムを停止にするには、モードスイッチ“MODE”でTCSを選択し、TCS OFF が表示されるまでMODE アップ “∧” スイッチを長押しします。

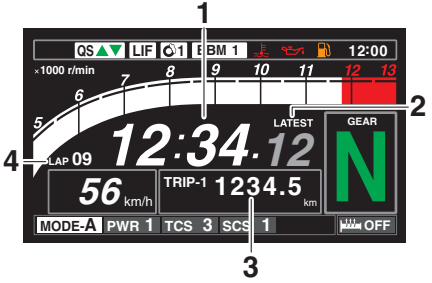
再びトラクションコントロールシステムをオンにするには、TCS OFFを選択し、MODEダウン “∨” スイッチを押します。（トラクションコントロールシステムは以前の設定に戻ります。）

要　点

トラクションコントロールシステムをオフにすると、全ての YRC モードで、SCS と LIF がオフになります。

ラップタイマー

このストップウォッチ機能は、40 周回分まで記録を測定できます。メイン画面では、ラップタイマーは現在のラップタイムと周回数を表示します（LAP マークが表示されます）。ヘッドライト上下切り替え／パッシングライトスイッチ “≡O/≡O/PASS” でラップタイムを記録します。周回が終わると、ラップタイマーは最新のラップタイム（LATEST マークが表示されます）を約 5 秒間表示します。



1. ラップタイム
2. 最新ラップタイム表示 “LATEST”
3. 情報ディスプレイ項目
4. 周回数

ラップタイマーの使い方

1. トラックモードのときに、ホイールスイッチを短押しします。情報ディスプレイの項目が約 5 秒間点滅します。
2. 点滅している間に、ホイールスイッチを上方向に回します。ラップタイマーが約 5 秒間点滅します。
3. 点滅している間に、ホイールスイッチを長押ししてラップタイマーを作動させるか、停止させます。
4. ラップタイマーが作動し、ヘッドライトがロービームに設定されたら、ヘッドライト上下切り替え／パッシングライトスイッチ“≡O/≡O/PASS”を“PASS”の方向に押し下げてハイビームを点滅させ、タイマーを開始します。

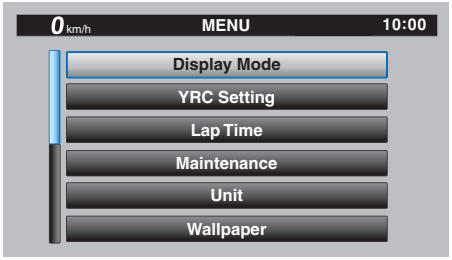
要　点

- ラップタイマーを使用するには、エンジンが始動している必要があります。
- 情報ディスプレイを FASTEST または AVERAGE に設定し、追加のラップタイム情報を表示できます。
- メニュー画面にアクセスすると、ラップタイマーは自動的に停止します。
- ラップタイマーが停止しているときは、現在のラップについては記録されません。

● ラップタイムの記録は、メニュー画面から確認およびリセットができます。

JAU93603

メニュー画面



メニュー画面には、次の設定モジュールがあります。

モジュール	説明
Display Mode	メイン画面の、ストリートモードとトラックモード表示を切り替えます。
YRC Setting	YRC の設定を行います。
Lap Time	ラップタイムの表示およびリセットを行います。
Maintenance	定期点検項目インターバルの表示およびリセットを行います。
Unit	燃料消費単位およびキロメートルとマイル単位の設定を行います。
Wallpaper	背景色を設定します。
Shift Indicator	シフトタイミングインジケーターランプの点灯／消灯の切り替え、および回転数の設定を行います。
Display Setting	情報ディスプレイの表示項目の設定を行います。
Brightness	画面の明るさを調節します。
Grip Warmer Setting	グリップウォーマーの設定を行います。（装備されている場合）
Clock	時刻調整を行います。
All Reset	全ての設定を工場出荷時の設定に戻します。

メニューへのアクセスと操作

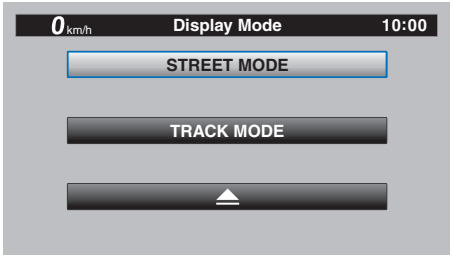
車両が停止中にホイールスイッチを長押ししてメニュー画面にアクセスします。
ホイールスイッチを上下に回転させて、設定項目のハイライト表示や、設定値を変更します。
ホイールスイッチを内側に短押しすることで、設定項目を選択し、設定値を確定します。
ホイールスイッチを長押しすることで、メニュー画面からメイン画面に戻ります。

要　点

● 一部のメニュー画面には、上向きの三角形のマーク項目があります。三角マークを選択すると、設定変更を保存し、画面を一つ前に戻すことができます。
● 車両の動きが検知されると、自動的にメニュー画面を終了し、メイン画面に戻りま

す。
- 設定変更を確実に保存するには、必ず三角マークから終了してください。ホイールスイッチを長押ししてメニュー設定を終了しても、設定の変更が保存されない場合があります。

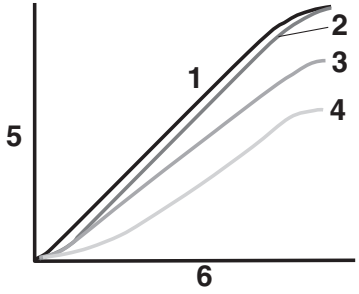
“Display Mode”
ディスプレイモードには、ストリートモードとトラックモードの 2 種類があります。



“YRC Setting”
このモジュールでは、4 つの YRC モード（MODE-A、MODE-B、MODE-C、MODE-D）の、YRC 項目（PWR、TCS、SCS、QS “▲”、QS “▼”、LIF、EBM、BC、ERS）の設定レベルを調整（もしくはオン / オフ）することでカスタマイズできます。

要　点
- トラクションコントロールシステムには5つの設定レベルが、ERS には 6 つのモードがあります。
- 画面上に一度に表示可能な選択項目（設定レベルやモード）が複数ある場合は、画面右側にスクロールバーが表示され、スクロールにより更に選択項目を表示できることをお知らせします。

PWR
最もアグレッシブなスロットルレスポンスを得るには PWR-1 を、よりスムーズなスロットル・エンジンレスポンスを得るには PWR-2 または PWR-3 を、雨天時や弱めのエンジン出力が望まれる場合はPWR-4を選択します。



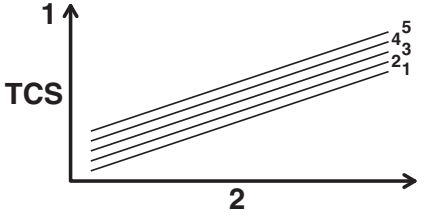
1. PWR 1
2. PWR 2
3. PWR 3
4. PWR 4
5. スロットルバルブ開度
6. スロットルグリップ操作量

トラクションコントロールシステム
このモデルは、可変トラクションコントロールシステムを装備しています。各設定レベルは、車両がより傾くほどトラクションコントロール（システムの介入）の量が大きくなります。設定レベルは 5 段階あり、レベル 1 はシステムの介入量が最小で、レベル 5 で最大になります。

要　点
- トラクションコントロールシステムは、メイン画面からのみモードスイッチ

“MODE” と MODE アップ “∧” スイッチを使用することで、完全に停止することができます。(4-17 ページ参照)

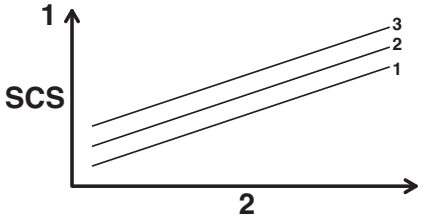
- トラクションコントロールシステムをオフにすると、TCS、SCS、LIF も OFF に設定され、調整ができなくなります。トラクションコントロールシステムを再びオンにすると、トラクションコントロール機能に関連するこれらの項目は、以前の設定レベルに戻ります。



1. システム介入量
2. リーンアングル

SCS

SCS は OFF または 1、2、3 に設定でき、OFF にするとスライドコントロールシステムはオフになります。レベル 1 はシステムの介入量が最小で、レベル3で最大になります。



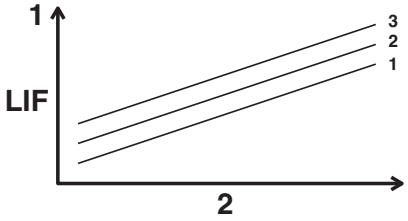
1. システム介入量
2. 横すべり

クイックシフター

クイックシフターは QS▲（シフトアップ）と QS▼（シフトダウン）に分かれています。QS ▲と QS▼は連動しておらず、個別にオンまたはオフを設定できます。
シフトアップまたはシフトダウン機能をオフにした場合、その方向へシフトチェンジする時には、クラッチレバーを使用する必要があります。

LIF

LIF は 1、2、3 または OFF に設定できます。レベル 3 に設定すると、ホイールの浮き上がりを最も強く抑制し、レベル 1 ではシステムの介入量が最小になります。OFF の場合は、LIF が機能しません。



1. システム介入量
2. 前輪の浮き上がり

EBM

このシステムは、2 つの設定ができます。レベル 1 に設定すると、システムの介入が最小となり、エンジンブレーキの効きは最大になります。レベル 2 ではシステムの介入が最大となり、エンジンブレーキの効きは最小になります。

BC

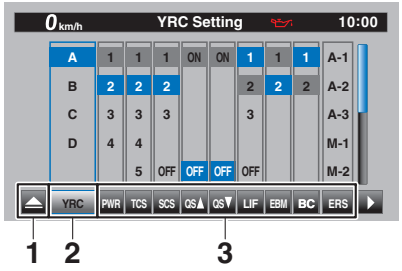
標準の ABS のみが必要な場合は、BC1 を選択します。BC2 を選択すると、ブレーキコントロールシステムがコーナリング中にブレーキ圧を調整し、ホイールがスリップすることを抑制します。

要　点

熟練したライダーやトラック走行の場合、さまざまな条件により、BC2 のブレーキシステムが希望のコーナリングスピードや意図したコーナリングラインに対して、想定よりも早く作動する場合があります。

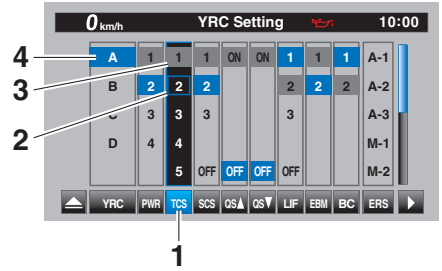
YRC モードのカスタマイズおよび YRC 項目の調整

1. “YRC　Setting” 画面が表示されている間、YRC モードボックス “YRC” がハイライトされます。ホイールスイッチを短押ししてボックスに入り、YRC モード（A、B、C、D）のうち調整したいものを選択します。



1. 三角マーク
2. YRC モードボックス
3. YRC 項目

2. 調整したい　YRC　項目：PWR、TCS、SCS、LCS、QS ▲、QS ▼、LIF、EBM、BC、ERS を選択して調整します。



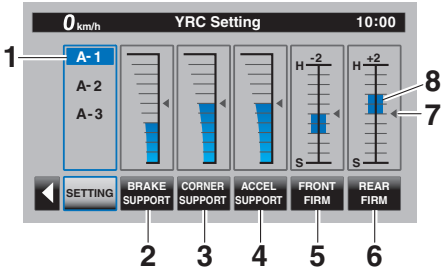
1. YRC 項目
2. 現在設定値
3. 工場設定値
4. YRC モード

要　点

- YRC項目が選択されると、現在の設定レベルが青でハイライト表示され、工場出荷時の標準設定がグレーでハイライト表示されます。
- 工場出荷時の標準設定は、選択した YRC モードにより異なります。

3. 設定が終わったら、左にある三角マークを選択し、MENU 画面に戻ります。または、“▶” マークを選択して、ERS モードの詳細設定に移ります。

ERS



1. ERS モード
2. ブレーキングサポートレベル
3. コーナリングサポートレベル
4. 加速サポートレベル
5. フロント減衰力
6. リヤ減衰力
7. 工場設定値
8. 現在設定値

ERS には、オートマチック（半自動）プリセット（A-1、A-2、A-3）と、マニュアル（手動設定）プリセット（M-1、M-2、M-3）があります。オートマチックプリセットが選択されると、走行状況に応じて SCU が圧側・伸側の減衰力を調整します。いずれのプリセットにおいても、スプリングプリロードは物理的に手動で調整する必要があります。（4-35 ページ、4-36 ページを参照）

要　点

工場出荷時の設定は、次のように意図されています。

- A-1 と M-1 は、レース用のスリックタイヤでの競技用のプリセットです。
- A-2 と M-2 は、一般道路用タイヤでの競技用のプリセットです。
- A-3 と M-3 は、一般道路用タイヤでの一般道路走行用のプリセットです。

半自動オートマチックプリセット（A-1/A-2/A-3）の設定可能値：

BRAKE SUPPORT：ノーズダイブ（ブレーキ時の前方傾斜）を抑制します。

CORNER SUPPORT：減衰力を増加させて車体の動きを吸収し、スムーズなコーナリングを手助けします。後輪のグリップ力を増加させるには、この設定値を減らします。

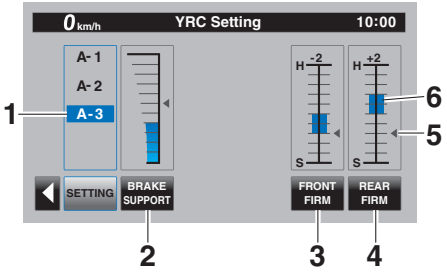
ACCEL SUPPORT：加速による車体後方の沈み込みを抑制します。

FRONT FIRM：フロントサスペンションの全体的な減衰力を、硬く（H）もしくは柔らかく（S）します。

REAR FIRM: リヤサスペンションの全体的な減衰力を、硬く（H）もしくは柔らかく（S）します。

要　点

一般道路用のプリセット　A-3　では、CORNER　SUPPORT と ACCEL SUPPORT は調整できず、メニューにも表示されません。



1. ERS モード
2. ブレーキングサポートレベル
3. フロント減衰力
4. リヤ減衰力
5. 工場設定値
6. 現在設定値

手動設定マニュアルプリセット（M-1/M-2/M-3）の設定可能値：

Fr COM：フロントの圧側減衰力

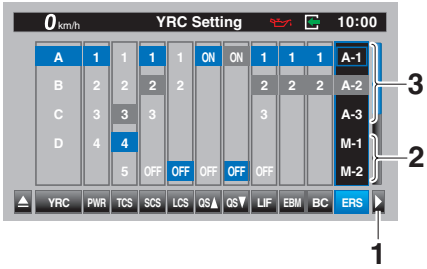
Fr REB：フロントの伸側減衰力

Rr COM：リヤの圧側減衰力

Rr REB：リヤの伸側減衰力

ERS モードの設定方法

1. YRC setting モジュールで、調整したい ERS プリセット（A-1/A-2/A-3/M-1/M-2/M-3）を選択します。

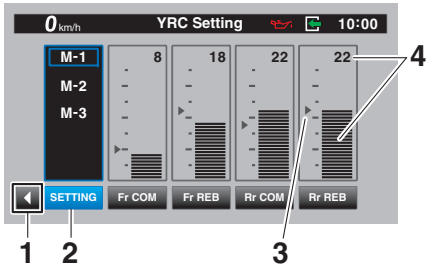


1. ERS メニューへ
2. 手動モード
3. 自動モード

要　点

ERS の設定画面は、自動（A-1/A-2/A-3）と手動（M-1/M-2/M-3）の画面に分かれており、別々にアクセスできます。ERS の設定メニューに移動する前に、ERS のモードに応じた適切な画面種類（自動／手動）が選択されていることを確認してください。

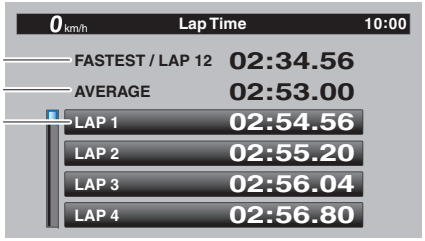
2. YRC 設定メニューで、ERS 右側の“▶”マークを選択し、ホイールスイッチを短押しします。
3. 画面表示が、対応するサスペンション設定画面（自動／手動）に切り替わり、ERS モード選択ボックス “SETTING” がハイライト表示されます。ホイールスイッチを短押しして、調整したいプリセットを選択し、もう一度ホイールスイッチを短押しします。
4. ホイールスイッチを回して異なる設定値に設定します。設定値をハイライト表示させ、ホイールスイッチを短押ししてから、ホイールスイッチを回して設定値を調整します。
5. 同じ種類の他の ERS モードを調整する場合は、手順 3 から繰り返します。種類を切り替えるには、“◀”マークを選択して、“YRC Setting” のメインメニューに戻ります。



1. YRC 設定メニューへ
2. ERS モード選択ボックス “SETTING”
3. 工場設定値
4. 現在設定値

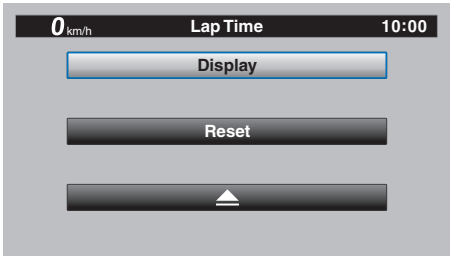
“Lap Time”

このモジュールでは、記録されたラップタイムの表示および削除が行えます。記録のうち、最速ラップおよび平均ラップタイムがスクリーン上部に表示されます。ホイールスイッチでスクロールすることで、すべてのラップタイムを確認できます。上位 3 位までの最速ラップは、シルバーでハイライト表示されます。メモリーには 40 ラップまで記録できます。40 を超えると、古いもの（ラップ 1 から）が自動的に上書きされます。



1. 最速ラップ
2. 平均ラップタイム
3. ラップタイム記録

このモジュールには2つのオプションがあります。“Display” では、記録されたラップタイムを確認できます。“Reset” では、記録されたラップタイムを削除できます。

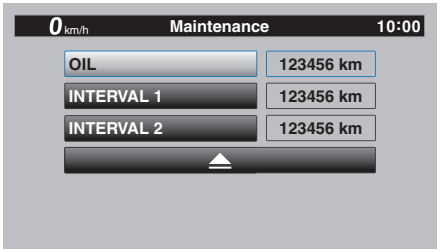


“Maintenance”

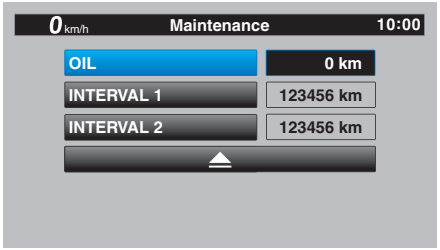
このモジュールでは、エンジンオイル交換時（OIL 項目を使用）から、INTERVAL 1・INTERVAL 2 のうち選択した方の間での走行距離を表示します。

メンテナンス項目のリセット

1. リセットしたい項目を選択します。



2. ホイールスイッチを長押しして、選択した項目をリセットします。



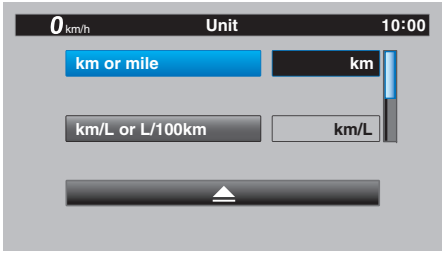
要　点

メンテナンス項目の名前は変更できません。

“Unit”

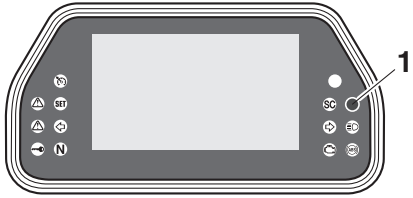
このモジュールでは、キロメートルとマイルの単位の切り替えができます。

キロメートルを選択しているとき、燃料消費単位は “km/L” または “L/100km” に切り替えることができます。マイルを選択しているときは、“MPG” が表示されます。



“Wallpaper”

このモジュールでは、ストリートモードとトラックモードの背景色について、昼夜それぞれを黒と白から選択できます。インストルメントパネルのフォトセンサーが明るさを検知し、自動的に昼夜を切り替えます。フォトセンサーは、昼夜モードそれぞれにおいて、明るさを最適な状態に微調整します。

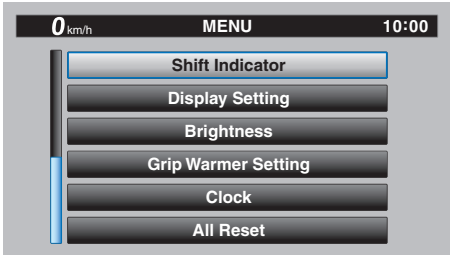


1. フォトセンサー

“Shift indicator”

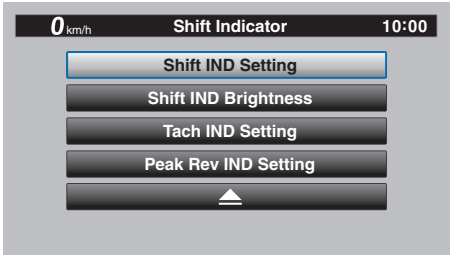
シフトインジケーターのモジュールには、次の項目があります。

モジュール	説明
Shift IND Setting	シフトタイミングインジケーターのパターンを、“ON”、“Flash”、“OFF” から選択し、何回転（r/min）でインジケーターが点灯もしくは消灯するかを調節します。
Shift IND Brightness	シフトタイミングインジケーターの明るさを調整します。
Tach IND Setting	タコメーターのカラー表示を “ON” と “OFF” から選択し、何回転（r/min）でタコメーターが緑もしくはオレンジになるかを設定します。
Peak Rev IND Setting	タコメーターの最大回転数ホールド表示を、“ON” もしくは “OFF” から選択します。

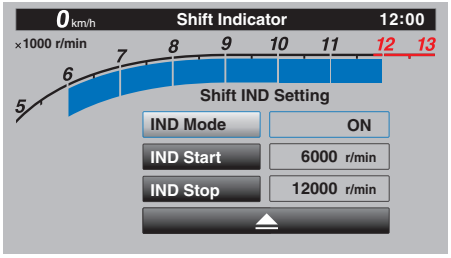


設定変更のしかた

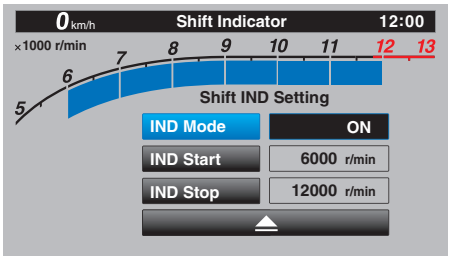
1. “Shift IND Setting” を選択します。



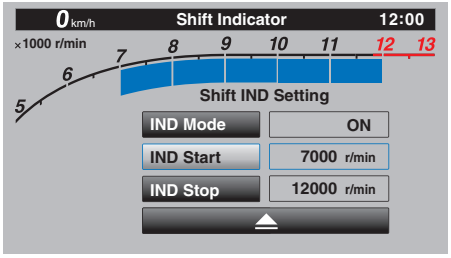
2. “IND Mode” を選択します。



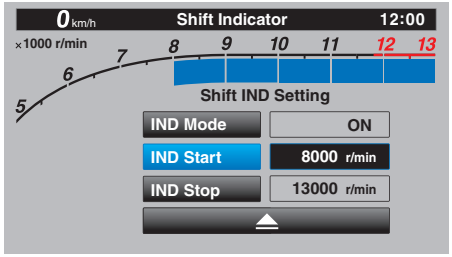
3. 設定したエンジン回転数に達したとき、インジケーターを常時点灯にするには “ON” を、消灯とするには “OFF” を、点滅させるには “Flash” を選択します。



4. “IND Start” を選択します。



5. ホイールスイッチを回し、インジケーターランプが点灯する回転数（r/min）を設定します。“IND Start” の設定可能レンジは、5000–12800 r/min の間です。

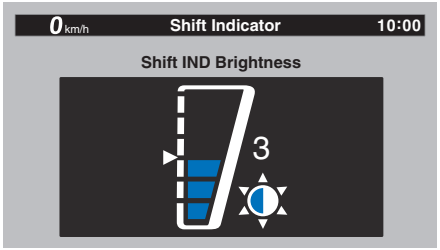


6. “IND Stop” を選択し、ホイールスイッチを回してインジケーターランプが消灯する回転数（r/min）を設定します。“IND Stop” の設定可能レンジは、5500–13000 r/min の間です。

要　点

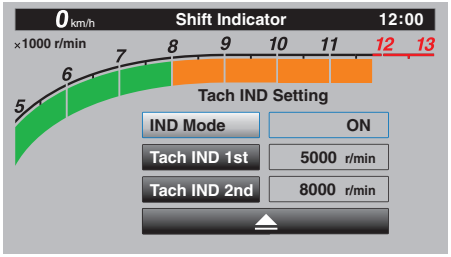
タコメーター上の青の部分は、現在設定されているシフトタイミングインジケーターの動作レンジを表します。

“Shift IND Brightness”
シフトタイミングインジケーターランプの明るさは、6 段階で調整できます。ホイールスイッチを短押しして設定を確定し、終了します。

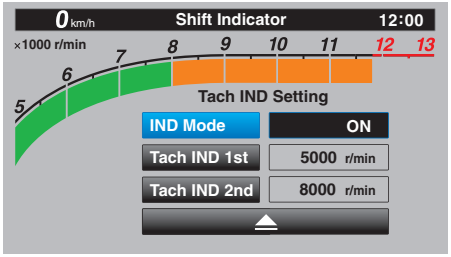


“Tach IND Setting”
このモジュールでは、タコメーターの色表示のオンとオフが切り替えられます。オフにすると、タコメーターはレッドゾーン以下の全ての回転数（r/min）を黒または白で表示します（Wallpaper の設定によります）。オンにすると、中回転域から中高回転域にかけて、緑もしくはオレンジ色で表示させることができます。

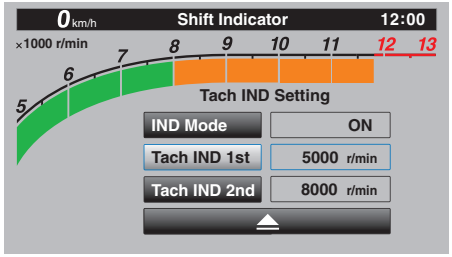
1. “IND Mode” を選択します。



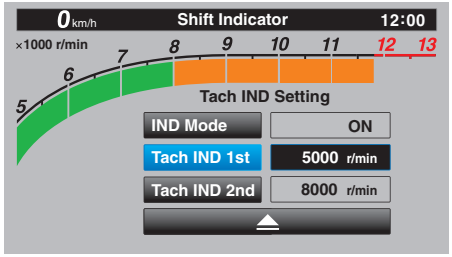
2. ON を選択しタコメーターの色表示を有効にします（もしくは OFF を選択し無効にします）。



3. “Tach IND 1st” を選択し、緑ゾーンの始点（r/min）を設定します。



4. 始点（r/min）をホイールスイッチを回して調整し、短押しします。設定した値（r/min）から “Tach IND 2nd” における設定値（もしくはレッドゾーン 11800 r/min まで）が、自動的に緑色で表示されます。

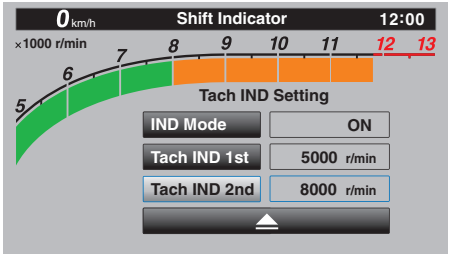


要　点

緑色表示の始点は、5000–11800 r/min

の間で調整できます。

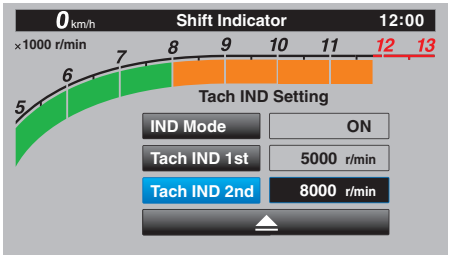
5. “Tach IND 2nd” を選択します。



6. オレンジ色表示の始点 (r/min) をホイールスイッチを回して調整し、短押しします。設定した値 (r/min) からレッドゾーン 11800 r/min までが、オレンジ色で表示されます。

要　点

オレンジ色表示の始点は、5000–11800 r/min の間で調整できます。

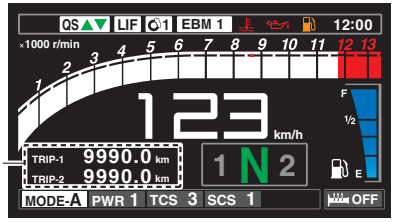


“Peak Rev IND Setting”

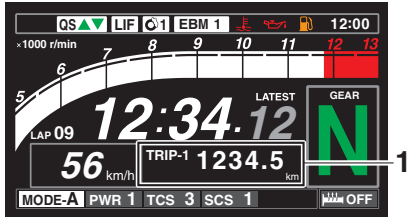
このモジュールでは、最大回転数ホールド表示のオンもしくはオフを切り替えられます。

“Display Setting”

このモジュールでは、メイン画面に表示される情報ディスプレイ (TRIP-1、ODO、C.TEMP など) のグループ化が行えます。グループは 4 つあります。



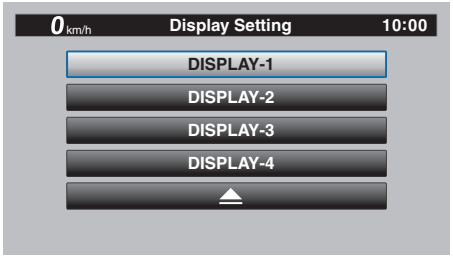
1. 情報ディスプレイ項目（ストリートモード）



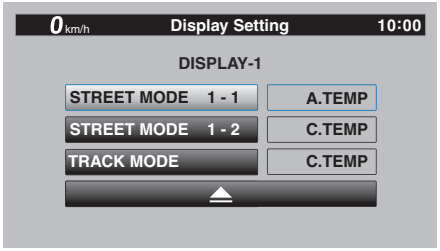
1. 情報ディスプレイ項目（トラックモード）

表示グループの設定のしかた

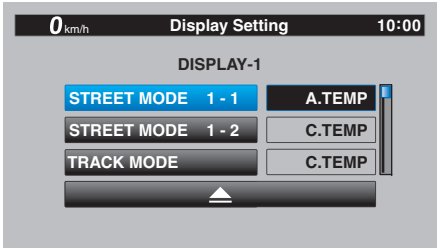
1. “DISPLAY-1”、“DISPLAY-2”、“DISPLAY-3”、“DISPLAY-4” が表示されます。



2. 例えば、“DISPLAY-1” を選択します。
3. “STREET MODE 1-1” を選択します。



4. ホイールスイッチで表示させたい表示項目を選択します。

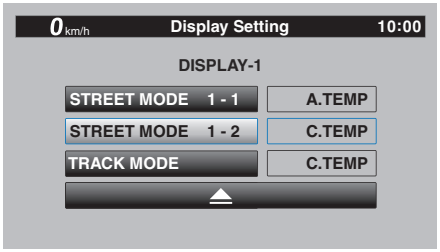


要　点

情報ディスプレイの項目は、次のとおりです。

A.TEMP: 気温
C.TEMP: 冷却水温
TRIP-1: トリップメーター 1
TRIP-2: トリップメーター 2
ODO: オドメーター
SPEED: クルーズコントロール速度設定
FUEL AVG: 平均燃料消費量
CRNT FUEL: 瞬間燃料消費量
FUEL CON: 燃料消費量

5. “STREET MODE 1-2” もしくは “TRACK MODE” を選択し、残りの DISPLAY-1 グループの項目を設定します。



6. 三角マークを選択し、終了します。他の表示グループを設定するには、手順 3 からを繰り返します。

“Brightness”

このモジュールでは、ディスプレイ画面の標準の明るさを調整できます。

“Grip Warmer Setting”（装備されている場合）

グリップウォーマーのモード（LO/MIDDLE/HIGH）の温度値を調整するためのものです。モードは、1（最小）から 10（最大）まで設定できます。

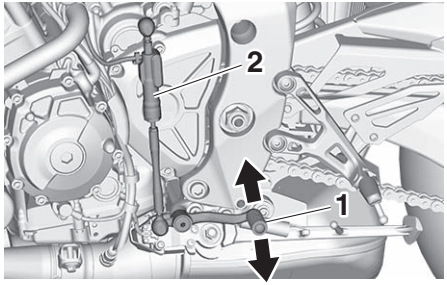
“Clock”

このモジュールでは、時刻設定を行えます。

“All Reset”
このモジュールでは、オドメーターと時計を除き、全ての項目を工場出荷時の設定に戻します。
YES を選択すると、全ての項目がリセットされ、自動的にメニュー画面に戻ります。

JAU83692

シフトペダル



1. シフトペダル
2. シフトセンサー

シフトペダルは車両の左側にあります。シフトアップするには、シフトペダルを上に動かし、シフトダウンするには、シフトペダルを下に動かします。（6-2 ページ参照）
シフトロッドには、クイックシフターの一部であるシフトセンサーが装備されています。シフトセンサーは、シフトペダルを動かしたときの上下の動きと入力の強さを読み取ります。

要　点

意図しないギヤチェンジを防ぐため、クイックシフターは不明確な入力信号を無視するようプログラムされています。ギヤチェンジするときは、素早く十分な強さで操作してください。

JAU94200

ブレーキコントロール (BC)

ブレーキコントロールは、ブレーキを使用し、ホイールがロックされたとき、前後輪それぞれのブレーキの油圧を個別に調整します。このシステムは、メニュー画面より 2 つの設定ができます。(4-19 ページ参照)
BC1 は、標準の ABS 制御です。走行速度とホイールの回転速度からブレーキ圧を調整します。車が直立した状態でブレーキをかけたとき、最大の効果を得られるように設計されています。BC2 は、標準の ABS 制御に加え、IMU によるコーナリング時の制動力の調整とホイールスリップの抑制をします。
ABS が作動していても、ブレーキは通常の方法で使用できます。ブレーキコントロールが作動したとき、ブレーキレバーまたはブレーキペダルに振動が感じられるかもしれませんが、故障ではありません。

JWA15363

⚠ 警 告

ABS を作動させた場合でも、走行速度に合わせて、常に前方車両から十分な距離を保って走行してください。

- **ABS は制動距離が長いほど、効果が発揮されます。**
- **未舗装路や砂利道など路面の状況により、ABS のない車に比べて制動距離が長くなることがあります。速度はひかえめにし、車間距離を充分にとってください。**

ABS は ABS ECU（ABS エレクトロニックコントロールユニット）によってモニターされており、ABS ECU が故障を検知した場合には通常のブレーキの状態になります。

JWA20891

⚠ 警 告

ブレーキコントロールは、適切な走行やブレーキ技術に代わるものではありません。過度な速度により制動距離が長くなることや、滑りやすい路面でのスリップを防ぐことはできません。

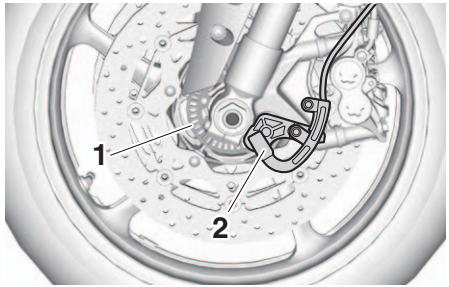
要　点

ABS は、走行速度が 5 km/h を超えると自己診断を行います。自己診断中、ハイドロリックコントロールユニットからクリック音が聞こえ、ブレーキレバーやペダルに振動が感じられる場合がありますが、故障ではありません。

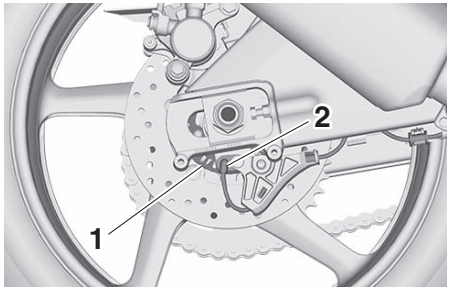
JCA20100

注 意

ホイールセンサーやホイールセンサーローターを傷つけないでください。ABS の性能が低下するおそれがあります。



1. フロントホイールセンサーローター
2. フロントホイールセンサー



1. リヤホイールセンサーローター
2. リヤホイールセンサー

JAU13077

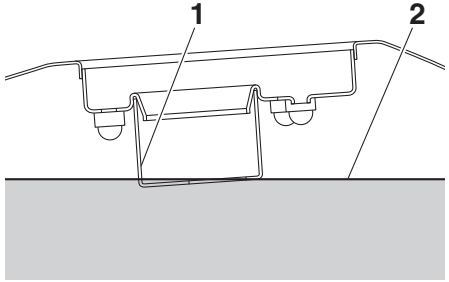
フューエルタンクキャップ

JWA12172

⚠警 告

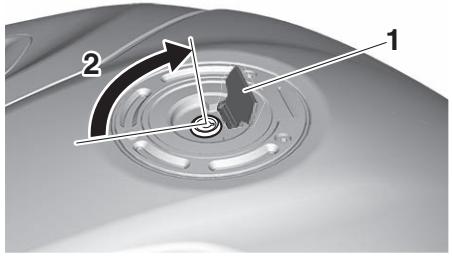
給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- **給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。**
- **フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があり、ヤケドするおそれがあります。**
- **給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。**
- **給油は、必ず屋外で行ってください。**
- **セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。**
- **給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。**
- **給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。**



1. フィラーチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクキャップの開けかた



1. ロックカバー
2. 解除

1. ロックカバーを開けます。
2. キーを差し込み、時計方向に 1/4 回してロックを解除します。
3. フューエルタンクキャップを開けます。

フューエルタンクキャップの閉めかた

1. キーを差し込んだ状態でフューエルタンクキャップを押して閉めます。
2. キーを反時計方向に回してロックし、抜き取ります。
3. ロックカバーを閉めます。

要　点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを閉めることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく閉めないと、キーを抜き取ることはできません。

JAU31461

燃料

JAU28333

指定燃料

指定燃料：
　無鉛プレミアムガソリン
タンク容量：
　約 17 L

JCA12512

注 意

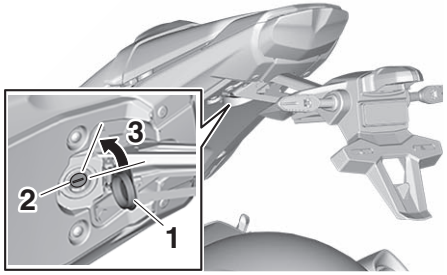
- **必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。**
- **こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。**
- **タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。**

JAU94110

シート

シートの取り外しかた

1. シートロックカバーを開いてキーをシートロックに差し込み、反時計方向に回します。

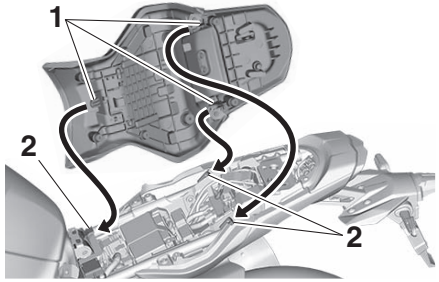


1. シートロックカバー
2. シートロック
3. 解除

2. キーを回した状態でシートを後方へスライドさせ、シートの後部を持ち上げ、シートを取り外します。

シートの取り付けかた

1. シートの突起を図のようにシートホルダーに差し込みます。



1. 突起
2. シートホルダー

2. シートの後部を押し、シートをロックします。
3. キーを抜き取り、ロックカバーを閉めます。

要　点

走行前に、必ずシートが確実にロックされていることを確認してください。

JCA27380

注 意

IMU がシート下にあります。ユーザーが扱うものではなく、とても繊細な機器のため、触れないようにしてください。

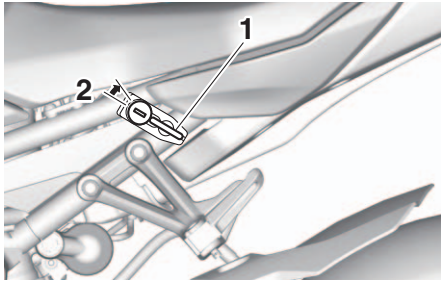
- **IMU を取り外したり、改造したり、内部および周囲に物を置いたりしないでくださ**

い。

● IMU に強い衝撃を与えないでください。

JAU14283

ヘルメットホルダー



1. ヘルメットホルダー
2. 解除

キーでロックを解除し、ヘルメットのあごひもの金具部分を掛けてロックします。

JWA11651

⚠ 警 告

ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

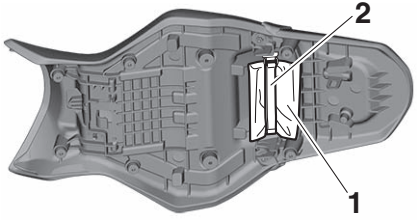
要　点

ヘルメットホルダーは、常にロックしておいてください。

JAU33142

書類入れ

シートを外すと書類入れ（収納用ポーチ）があります。（4-33 ページ参照）車検証、保険証、メンテナンスノートはビニール袋に入れ、書類入れに保管してください。書類入れは二つ折りにし、ゴムバンドで固定してください。



1. 書類入れ
2. ゴムバンド

JAU94871

フロントフォークの調整

このモデルには、オーリンズ（ÖHLINS）の電子レーシングサスペンションが装備されています。
圧側減衰力、伸側減衰力は、電子的に調整されます。(4-22 ページの ERS 項目を参照ください)

JCA22472

注 意

- **サスペンション調整時には、アルマイト処理された表面を傷つけないよう、細心の注意を払ってください。**
- **サスペンションの内部構造へのダメージを避けるため、最大もしくは最小の設定値を超えて回さないでください。**

スプリングプリロード

JWA14671

⚠警 告

スプリングプリロードアジャスターは左右同じ位置に調整してください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

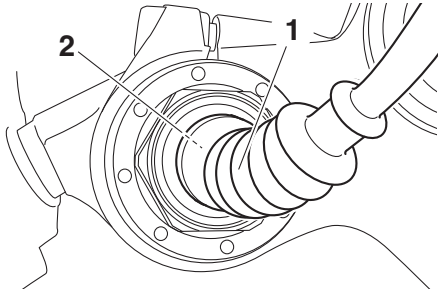
スプリングプリロードの調整は、手動で行います。

1. 車両の電源を OFF にします。
2. 各カプラーのゴムカバーを上にずらします。
3. 左右のフロントフォークのカプラーを外します。

JCA22770

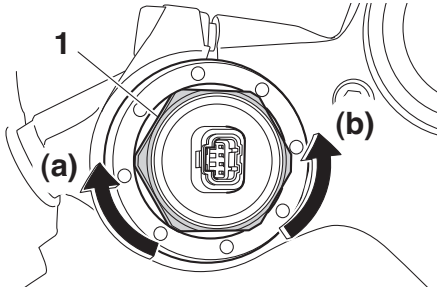
注 意

カプラーの損傷を防ぐため、鋭利な道具を用いたり、過度な力を加えないでください。



1. ゴムカバー
2. カプラー

4. プリロードアジャスターを (a) 方向に回すと、スプリングプリロードが大きくなり、(b) 方向に回すと小さくなります。
スプリングプリロードの調整は、アジャスターを (b) 方向に止まるまで回し、(a) 方向へ戻す回転数を数えて行います。



1. スプリングプリロードアジャスター

スプリングプリロード：
最小（ソフト）：
(a) 方向へ 0 回転
標準：
(a) 方向へ 11 回転
最大（ハード）：
(a) 方向へ 15 回転

要 点

アジャスターを (a) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、スプリングプリロードに変化はありません。調整範囲内で使用してください。

5. 左右のフォークのカプラーを接続します。
6. ゴムカバーを元の位置に戻します。

リヤクッションの調整

JAU94880

JWA10222

⚠警 告

リヤクッションユニットには高圧窒素ガスが封入されています。リヤクッションユニットを取り扱う場合は、必ず下記のことを厳守してください。

- **シリンダー本体を加工または分解しないでください。**
- **リヤクッションユニットを火気の中に投げ込まないでください。高温にさらすとガスが膨張し、爆発するおそれがあります。**
- **シリンダーを変形させたりダメージを与えないでください。これを行うと、減衰力が低下するおそれがあります。**
- **損傷または変形したリヤクッションユニットを、ご自分で処分しないでください。リヤクッションユニットの処分が必要なときは、ヤマハ販売店にご相談ください。**
- **点検整備については、必ずヤマハ販売店にて実施してください。**

このモデルには、オーリンズ（ÖHLINS）の電子レーシングサスペンションが装備されています。

圧側減衰力、伸側減衰力

圧側減衰力、伸側減衰力は、電子的に調整されます。(4-22 ページの ERS 項目を参照ください)

JWA12441

⚠警 告

シートに人を乗せて調整をしないでください。車が動き、手などに思わぬケガをすることがあります。

スプリングプリロード

スプリングプリロードの調整は、手動で行います。

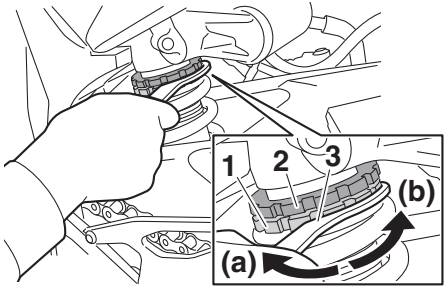
1. ロックナットをゆるめます。
2. プリロードアジャスターを (a) 方向に回すと、スプリングプリロードが大きくなり、(b) 方向に回すと小さくなります。スプリングプリロードのセッティングは、図のセット長 A を測定して決めます。セット長 A を長くすると、スプリングプリロードは大きくなり、短くすると小さくなります。

JCA10102

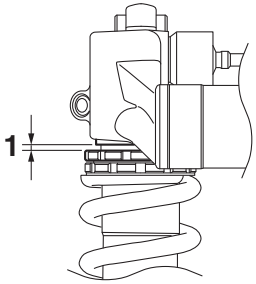
注 意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

- サービスツール内の調整レンチを使って調整を行います。



1. スプリングプリロードアジャスター
2. ロックナット
3. 調整レンチ



1. セット長 A

スプリングプリロード：
最小（ソフト）：
セット長 A = 0.0 mm
標準：
セット長 A = 4.0 mm
最大（ハード）：
セット長 A = 9.0 mm

3. ロックナットを規定トルクで締め付けます。

JCA22760

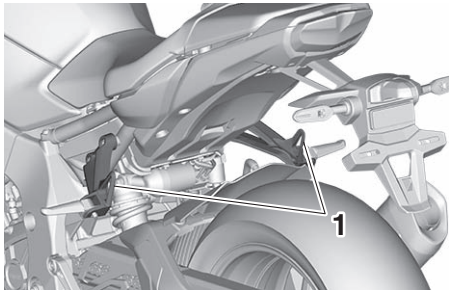
注 意

常にスプリングプリロードアジャストリングに対してロックナットを規定トルクで締め付けてください。

締め付けトルク：
ロックナット：
25 N·m (2.5 kgf·m)

JAU84680

荷掛けフック



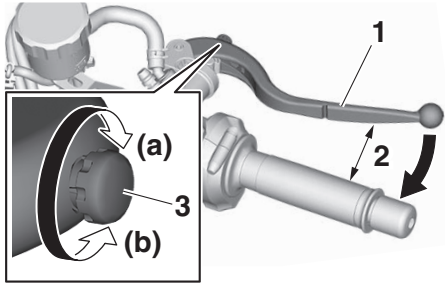
1. 荷掛けフック

図に示した荷掛けフックを使用し、荷物を固定します。

JAU98820

ブレーキレバーの握り調整

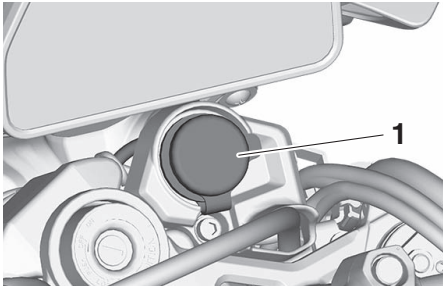
手の大きさに合わせて、ブレーキレバーの握り幅を調整できます。
握り幅の調整は、レバーを手前に引きながらアジャスターを回します。アジャスターを (a) 方向に回すと握り幅が広くなり、(b) 方向に回すと狭くなります。



1. ブレーキレバー
2. 握り幅
3. アジャスター

JAU93890

パワーアウトレット



1. パワーアウトレットキャップ

パワーアウトレットに接続した 12V のアクセサリーは、エンジンを始動した状態で使用します。

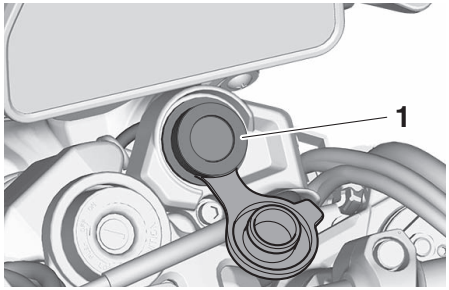
JCA27360

注 意

パワーアウトレットに接続するアクセサリーは、エンジンが停止している場合には使用しないでください。また、接続負荷が 12 W（1.0 A）を決して超えないようにしてください。ヒューズ切れや、バッテリーあがりを起こす可能性があります。

パワーアウトレットの使いかた

1. メインスイッチを OFF にします。
2. パワーアウトレットキャップを取り外します。
3. アクセサリーをオフにします。
4. アクセサリーのプラグをパワーアウトレットに差し込みます。



1. パワーアウトレット

5. メインスイッチを ON にし、エンジンを始動します。（6-1 ページ参照）
6. アクセサリーをオンにします。

JWA21220

⚠ 警 告

感電または短絡を防止するため、パワーアウトレットを使用しない場合は、必ずキャップを取り付けてください。

JAU92960

ETC コネクター

この車には ETC コネクターが搭載されています。ご使用については、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU15306

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要　点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。（サイドスタンドスイッチについては次の項目を参照してください。）

JWA10242

⚠警 告

サイドスタンドを下ろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない（上がった状態にならない）場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

JAU57952

イグニッションサーキットカットオフシステム

このシステムは、ギヤがニュートラル以外に入っているときのエンジン始動を制御します。サイドスタンドが上がっているがクラッチレバーが握られていないとき、もしくはクラッチレバーを握っているがサイドスタンドが下がっているときは、エンジン始動はできません。また、ギヤがニュートラル以外に入った状態でサイドスタンドを下げると、エンジンが停止します。

イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って適時点検してください。

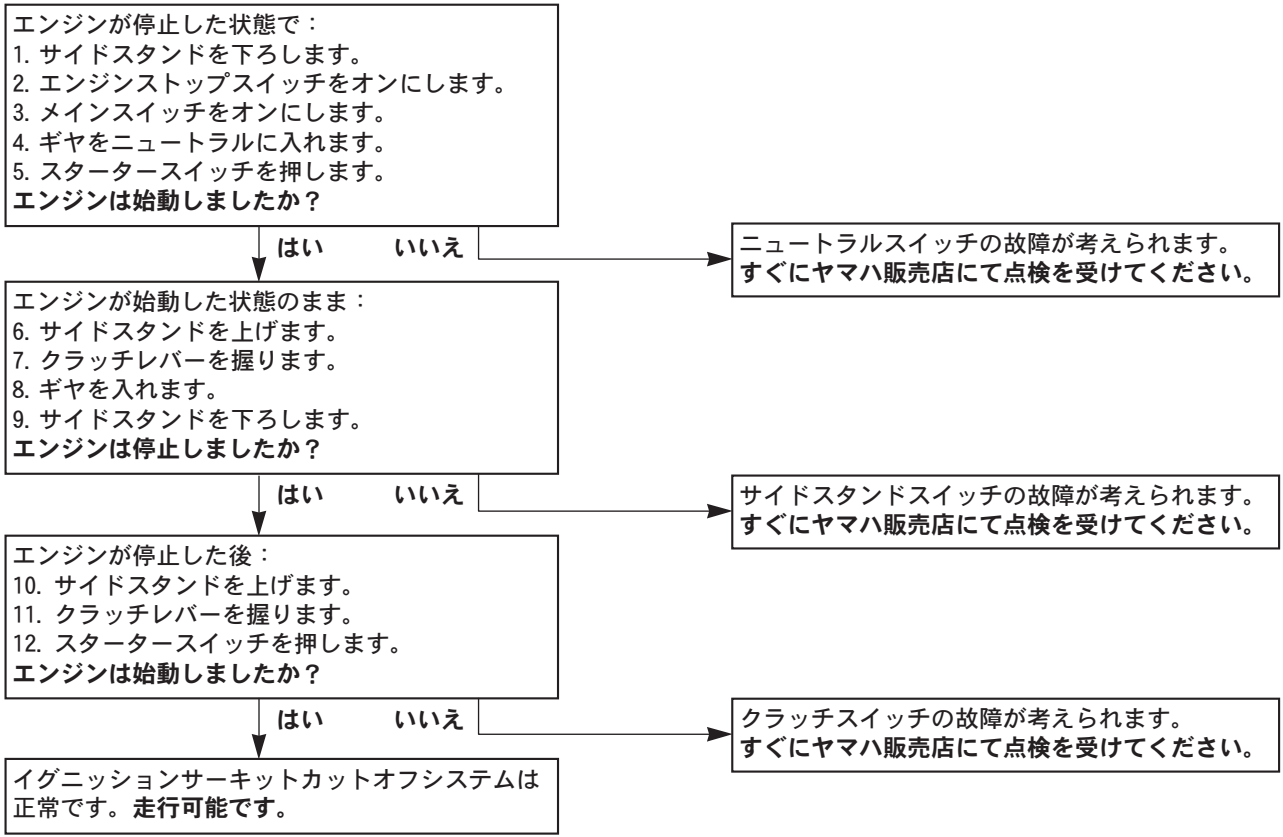
要　点

- この点検は、エンジンが暖まった状態で行ってください。
- スイッチ操作については、4-2ページ、4-3ページを参照してください。

JWA11541

⚠警 告

点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。


エンジンが停止した状態で：
1. サイドスタンドを下ろします。
2. エンジンストップスイッチをオンにします。
3. メインスイッチをオンにします。
4. ギヤをニュートラルに入れます。
5. スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？
はい
いいえ
ニュートラルスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。
エンジンが始動した状態のまま：
6. サイドスタンドを上げます。
7. クラッチレバーを握ります。
8. ギヤを入れます。
9. サイドスタンドを下ろします。
エンジンは停止しましたか？
はい
いいえ
サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。
エンジンが停止した後：
10. サイドスタンドを上げます。
11. クラッチレバーを握ります。
12. スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？
はい
いいえ
クラッチスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。
イグニッションサーキットカットオフシステムは
正常です。走行可能です。

JAU1559B

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JWA12032

⚠警 告

- **日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）

JAU30142

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、7-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。（※）
エンジン	● 冷却水の量が適当であること。（※） ● エンジンオイルの量が適当であること。（※） ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。（※） ● 低速、加速の状態が適当であること。（※）
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

（注）

※ 印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期（長距離走行時や洗車、給油後など）に実施をしてください。

JWA11733

⚠警 告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
- **エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。**
- **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。**
- **走行して点検するときは、交通状況に注意してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JAU31471

ならし運転

JAU27665

ならし運転のしかた

初回 1 か月目（または 1000 km 走行時）の点検までは、ならし運転をしてください。
ならし運転中はエンジン回転数を5900 r/min 以下で走行してください。
また、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。
ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

JAU91411

エンジン始動

JWA11562

⚠ 警 告

- **エンジンを始動するときには、4-39 ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検してください。**
- **サイドスタンドを下ろした状態で走行しないでください。**

1. 車両の電源をオンにし、スターター／エンジンストップスイッチが“ ”にセットされていることを確認します。
2. ギヤをニュートラルにします。

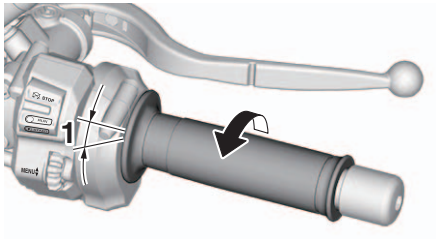
要　点

ギヤをニュートラルにしたとき、ニュートラルランプが点灯しない場合、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

3. スロットルを完全に閉じます。
4. スターター／エンジンストップスイッチの “ ” 側を押して、エンジンを始動します。

要　点

- スターター／エンジンストップスイッチで 5 秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒位休ませてからスターター／エンジンストップスイッチを押してください。
- エンジンが始動しない場合、スロットルグリップを 1/4 回転（20°）開けた状態で再度始動してください。



1. 1/4 回転（20°）

JCA16661

注 意

- **エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。**
- **長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。**
- **通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（スロットルグリップを開け**

て固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。

JAU68221

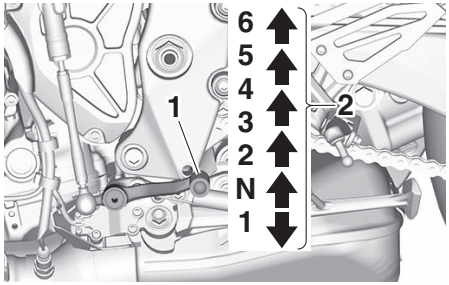
要　点

この車は、以下の機構を装備しています。

- 慣性計測装置（IMU）：メインスイッチがオンのときに車体が転倒した状態になると、エンジンを停止させます。この機構が働くと、車体を起こしてもエンジン停止の制御が継続されるため、スターターモーターは回転しても、エンジンを始動することができません。そのまま始動操作を続けると、バッテリー上がりの原因になることがありますので、このような状態になった場合はメインスイッチを一旦オフにして、再度オンにするリセット操作をしてください。
- エンジン自動停止システム：車両が停止した状態で20分間以上エンジンがかかったままになっていると、エンジンを停止させます。この機能でエンジンが停止した場合は、スタータースイッチを押せば再始動が可能です。

JAU67084

ギヤチェンジのしかた



1. シフトペダル
2. ギヤの位置

ギヤを切り替えることで、発進時、加速時、登坂時などに必要なエンジン出力量をコントロールします。
素早くシフトアップするためには、クイックシフターを ON にします。詳細は、3-3 ページと4-20ページのクイックシフターの項目をご参照ください。

JCA22523

注 意

- **シフトペダルは、踏みごたえがあるまで確実に操作してください。**
- **ギヤがニュートラル位置であっても、エンジンを停止したまま長い間惰性走行を行ったり、長い距離をけん引したりしない**

でください。エンジンが停止しているとトランスミッションの潤滑が不十分になり、トランスミッションが損傷するおそれがあります。

- **クイックシフターを用いる場合を除き、クラッチレバーを確実に握らずにギヤチェンジしたり、無理なギヤチェンジは、チェンジ機構の故障の原因になります。**

JAU64130

ギヤチェンジの速度

各ギヤでの走行速度およびシフトダウンのギヤチェンジは、以下の速度を目安として行ってください。

走行速度

1 速 : 0 km/h–125 km/h
2 速 : 20 km/h–150 km/h
3 速 : 25 km/h–175 km/h
4 速 : 30 km/h–180 km/h
5 速 : 35 km/h–180 km/h
6 速 : 40 km/h 以上

シフトダウン速度

6 速 → 5 速 : 180 km/h 以下
5 速 → 4 速 : 165 km/h 以下
4 速 → 3 速 : 140 km/h 以下
3 速 → 2 速 : 120 km/h 以下
2 速 → 1 速 : 100 km/h 以下

JWA20720

⚠警 告

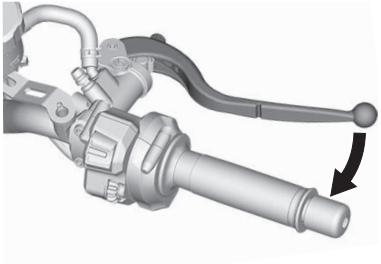
法定速度を守って走行してください。

JAU33176

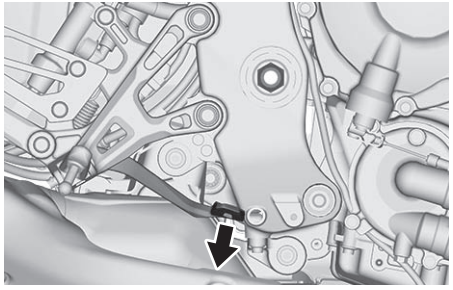
ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々にかけます。

<フロントブレーキ>



<リヤブレーキ>



JWA11573

⚠警 告

- **急なブレーキ操作は避けてください（特に**

どちらか一方に傾いているとき）。横すべりや転倒の原因となります。
- 踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。
- 濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。
- 下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。
- 連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。

JCA26500

注 意

- 上り坂で停止するときは、ブレーキを使用してください。スロットルグリップならびにクラッチの操作で車を保持すると、クラッチなどが発熱して故障の原因となったり、エンジン警告灯が点灯したりするおそれがあります。
- 不要な空ぶかしをしないでください。エンジン警告灯が点灯するおそれがあります。

JAU17214

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜きます。

JWA11582

⚠ 警 告

- エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。
- 草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。
- 傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。

JAU29839

点検整備の実施

日常点検

5-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1年点検と2年点検の2種類があります。定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12055

⚠ 警 告

- **点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。**
- **点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。**
  - **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
  - **エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
  - **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。**
  - **走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。**
  - **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JWA15461

⚠ 警 告

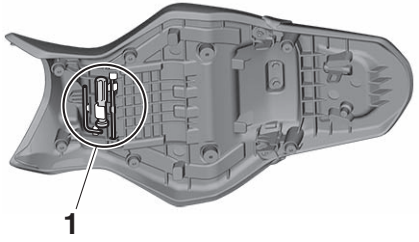
走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が充分に冷えてから行ってください。

要　点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

JAU85240

サービスツール



1. サービスツール

サービスツールは図で示す場所にあります。また、車両購入時に別に手渡されるサービスツールがあります。

JAU30378

エンジンオイル

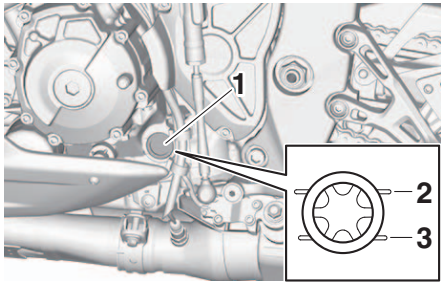
エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを２～３分間アイドリング運転します。

要　点

走行直後でエンジンが充分に暖まっていれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止めて車を垂直にし、オイルレベルが安定するまで数分間待ちます。その後、オイル点検窓でエンジンオイル量を点検します。

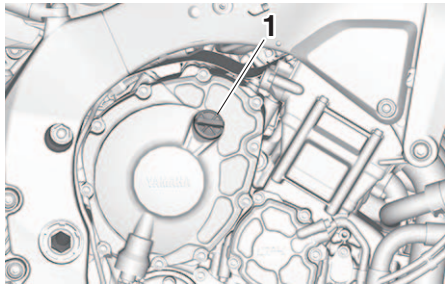


1. エンジンオイル点検窓
2. フルレベル
3. ロアレベル

3. オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。（推奨エンジンオイルについては、8-3 ページ参照）

要　点

O リングに損傷がないか点検し、損傷がある場合は交換してください。



1. オイル注入口

JAU47505

エンジンオイルの交換時期

初回：
1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目以降：
10000 km 走行ごと、または 1 年ごと
エンジンオイル量：
オイル交換時：
3.90 L
オイルフィルター取り外し時：
4.10 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

オイルフィルターカートリッジの交換時期

初回：
1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目以降：
30000 km 走行ごと

JWA11861

⚠警 告

- **走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
- **油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。**

JCA12261

注 意

- **化学添加剤は一切加えないでください。**
- **補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。**
- **オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。**

JAU30691

エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。
エンジンから異音がしないかを点検します。

JAU44194

低速、加速の状態の点検

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離したときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱいに切った状態でも同じ点検を行ってください。
- スロットルケーブルに劣化や損傷などがないか点検してください。また、取り付けの状態も点検してください。
- スロットルケーブルには、ゴムカバーが取り付けられているものがあります。ゴムカバーが確実に取り付けられていることを確認し、洗車時にはゴムカバーに直接水をかけないようにしてください。ゴムカバーの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぼった布などでふき取ってください。

JWA15531

⚠警 告

ケーブル、ワイヤー類に異常があるときは、早めにヤマハ販売店にご相談ください。異常がある状態で使用を続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。

スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストール（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU20071

冷却水

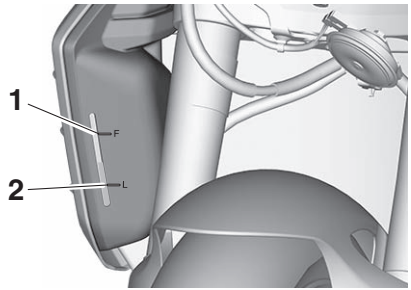
JAU30723

冷却水量の点検

要　点

冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で、車を平坦なところで垂直にして行ってください。

リカバリータンク内の冷却水量が、フルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。



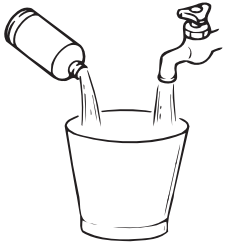
1. フルレベル
2. ロアレベル

冷却水がロアレベル以下のときは、以下を参照して補充してください。

JAU30805

冷却水のつくりかた

ヤマルーブロングライフクーラントと水道水を 1 対 1 で混ぜ合わせます。



JWA11882

⚠ 警 告

クーラントには毒性がありますので、取り扱いには充分注意してください。

- **目に入ったとき**
  水で充分に洗い流してから、医師の治療を受けてください。
- **皮膚や衣類についたとき**
  すみやかに水洗いした後、セッケン水で洗ってください。
- **飲んだとき**
  すぐにおう吐させ、医師の治療を受けてください。

JCA12112

注 意

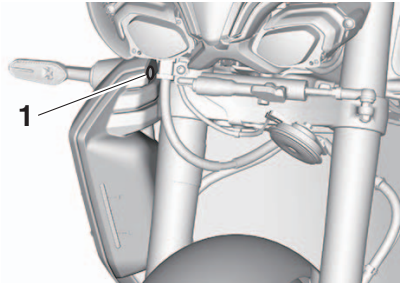
混ぜ合わせに使用する水は水道水を使用し、井戸水や塩分の含まれた天然水は使用しないでください。

JAU98880

冷却水の補充

冷却水がロアレベル以下の場合は、次の手順に従ってリカバリータンクキャップを取り外します。

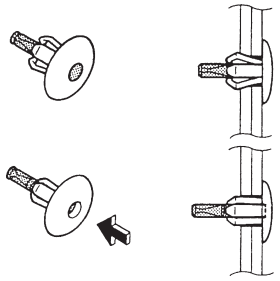
1. クイックファスナーを取り外します。



1. クイックファスナー

要 点

センターピンを押し込み、クイックファスナーを取り外します。

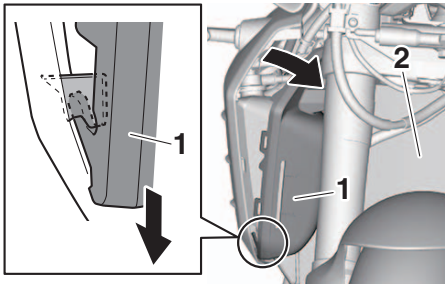


2. 図のように冷却水リカバリータンクカバー A を手前に引き、下にスライドさせて取り外します。

JCA28240

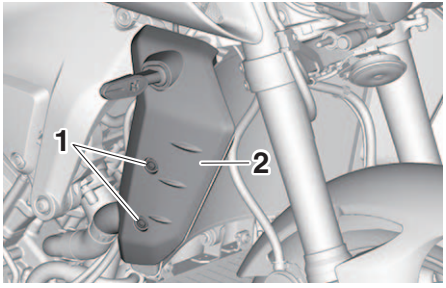
注 意

冷却水リカバリータンクカバー A を取り外すときは、ラジエターフィンに触れないようにして取り外してください。



1. 冷却水リカバリータンクカバー A
2. ラジエターフィン

3. ボルトを外し、冷却水リカバリータンクカバー B を外します。



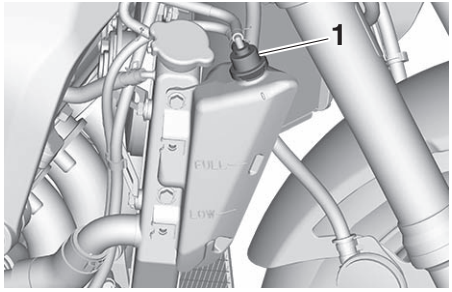
1. ボルト
2. 冷却水リカバリータンクカバー B

4. リカバリータンクキャップを取り外します。

JWA22130

⚠ 警 告

リカバリータンクキャップのみを取り外してください。エンジンが高温のときに、ラジエターキャップを外さないでください。



1. リカバリータンクキャップ

5. 冷却水をフルレベルまで補充します。

JCA12121

注 意

- **フルレベル以上は入れないでください。**
- **冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行ってください。**

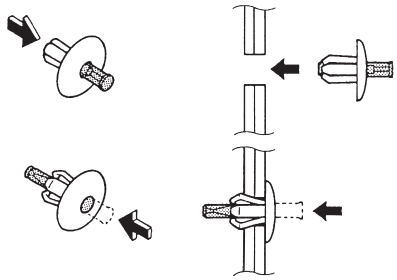
6. リカバリータンクキャップを取り付けます。
7. 冷却水リカバリータンクカバー B を元の位置に戻し、ボルトを指定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
冷却水リカバリータンクカバーボルト
4.3 N·m (0.43 kgf·m)

8. 冷却水リカバリータンクカバー A を元の位置に置き、クイックファスナーを取り付けます。

要 点

クイックファスナー B は、ねじ部がクイックファスナーの面から突き出した状態で取り付け、その後クイックファスナーの面と同じ位置になるまで押し込みます。



JAU36765

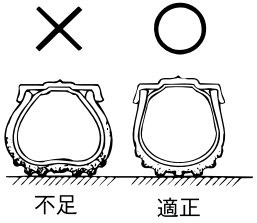
エアクリーナーエレメントの交換

エアクリーナーエレメントは、定期的な交換が必要です。
エアクリーナーエレメントの交換は、ヤマハ販売店へ依頼してください。
ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、より短い期間で交換する必要があります。ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU65360

タイヤ

空気圧



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。
空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。

タイヤ空気圧（冷間時）：
1 名乗車：
前輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm^2)
後輪：
290 kPa (2.90 kgf/cm^2)
2 名乗車：
前輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm^2)
後輪：
290 kPa (2.90 kgf/cm^2)

要　点

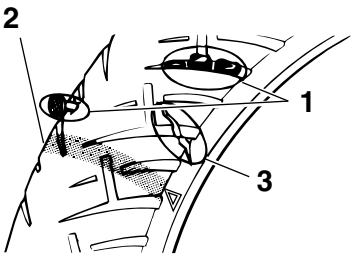
- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも 1 か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28642

タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。
この車はチューブレスタイヤを装着してい

ます。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



1. 異物（釘、石など）
2. ウェアインジケーター（摩耗限度表示）
3. 亀裂、損傷

要　点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

JAU28701

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28776

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要　点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が0.8 mm になるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪車のタイヤは溝の深さが前輪 1.6mm、後輪2.0mm以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914

⚠警　告

- **タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。**
- **過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。**
- **タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**

タイヤサイズ：

前輪：
120/70ZR17M/C(58W)

後輪：
190/55ZR17M/C(75W)

指定タイヤ：

前輪：
BRIDGESTONE/BATTLAX HYPERSPORT S22F

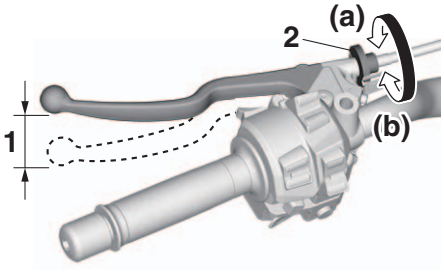
後輪：
BRIDGESTONE/BATTLAX HYPERSPORT S22R

JAU94121

クラッチレバーの遊びの調整

クラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引き、レバー先端部の遊びの量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

クラッチレバーの遊び：
10.0–15.0 mm



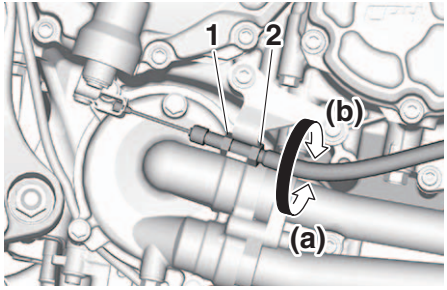
1. 遊び
2. アジャスター

点検の結果、調整が必要な場合は、アジャスターで調整します。
クラッチレバーの遊びを増やすには、クラッチレバーのクラッチレバーのアジャスターを（a）方向に回します。クラッチレバーの遊びを減らすには、アジャスターを（b）方向に回します。

要　点

レバー側のアジャスターでクラッチレバーの遊びを規定値内に調整できない場合は、クランクケース右側にあるロックナットをゆるめて、アジャスターで調整します。

1. アジャスターを（a）方向に完全に回してクラッチケーブルを緩めます。
2. クラッチケーブルのロックナットを緩めます。
3. クラッチレバーの遊びを増やすには、クラッチレバーのアジャスターを（a）の方向に回します。クラッチレバーの遊びを減らすには、アジャスターを（b）の方向に回します。



1. ロックナット
2. アジャスター

4. ロックナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
ロックナット
7 N·m (0.7 kgf·m)

JAU31122

ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検

ブレーキの遊びの点検

ブレーキレバーおよびブレーキペダルの遊びはありません。ブレーキを手で作動させ、手ごたえがあるかどうかを確認します。

JWA11741

⚠警 告

ブレーキレバーの引き具合、ブレーキペダルの踏み具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761

⚠警 告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

JAU36505

ブレーキランプスイッチの点検

ブレーキがきき始める直前にブレーキランプが点灯するか点検します。ブレーキランプは ABS の構成部品ですので、異常があるときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

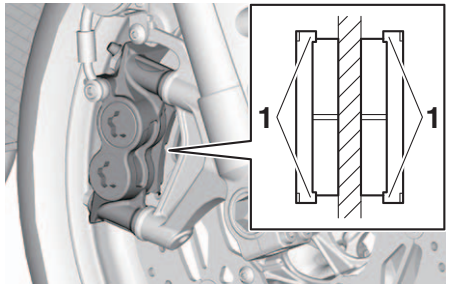
JAU22393

フロントおよびリヤブレーキパッドの点検

フロントおよびリヤブレーキパッドは「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期に摩耗の点検を行ってください。

JAU22411

フロントブレーキパッドの点検



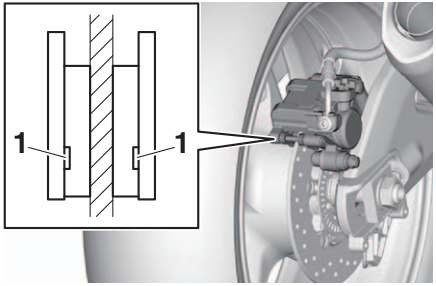
1. インジケーター

フロントブレーキパッドはウェアインジケーターを備えており、ブレーキを分解しなくてもブレーキパッドの摩耗を確認することができます。ブレーキパッドの摩耗を確認するには、ブレーキをいっぱいに作動させてインジケーターの示す位置を点検します。インジケーターがブレーキディスクに達したらブレーキパッドの使用限度です。ヤマハ販

売店でブレーキパッドをセットで交換してください。

JAU46292

リヤブレーキパッドの点検



1. インジケーター溝

リヤブレーキパッドはインジケーター溝を備えており、ブレーキを分解しなくてもブレーキパッドの摩耗を確認することができます。ブレーキパッドの摩耗を確認するには、インジケーター溝を点検します。インジケーター溝がブレーキディスクに接しているように見えたらブレーキパッドの使用限度です。ヤマハ販売店で、ブレーキパッドをセットで交換してください。

JAU22585

ブレーキ液量の点検

乗車する前に、ブレーキ液がロアレベルより上にあることを確認します。

要　点

リザーバータンクの上面が水平になるようにして、ブレーキ液量を点検してください。

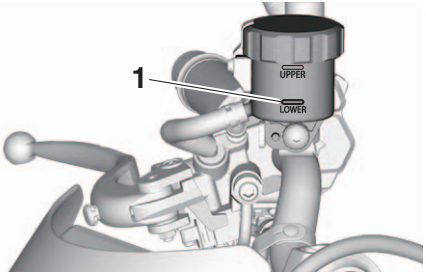
指定ブレーキ液：
BF-4 (DOT-4)

JCA17641

注 意

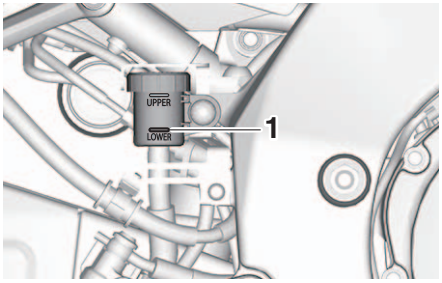
ブレーキ液は塗装面やプラスチック部品を損傷させることがあります。液がこぼれたら必ず、すぐにふき取ってください。

＜フロントブレーキ＞



1. ロアレベル

＜リヤブレーキ＞



1. ロアレベル

ブレーキパッドの摩耗と共にブレーキ液量は徐々に下がってきますが、正常なことです。

- ブレーキ液量が少ないときは、ブレーキパッドの摩耗やブレーキ系統に液漏れが起きていることがあります。
- ブレーキ液量が急激に下がった場合は、乗車する前にヤマハ販売店に点検を依頼してください。

JWA15991

⚠ 警 告

適切な点検・整備を行わないと、ブレーキ性能が低下する可能性があります。以下の注意事項を守ってください：

- **ブレーキ液が不足したまま使用しないでください。ブレーキ系統に空気が入り、ブ**

レーキ性能の低下につながるおそれがあります。

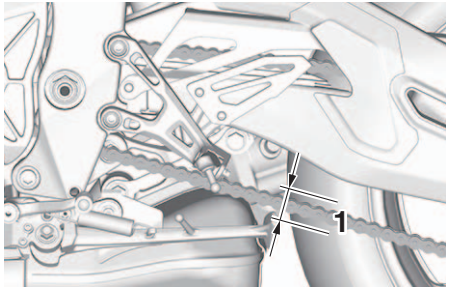
- **キャップを取り外す前に、キャップのまわりをきれいにしてください。密閉容器に入った BF-4 (DOT-4) ブレーキ液のみを使用してください。**
- **指定ブレーキ液を使用してください。指定以外のブレーキ液を使用すると、シール類が劣化し、液漏れを起こすことがあります。**
- **ブレーキ液は同じ種類のものを使用してください。BF-4 (DOT-4) 以外のブレーキ液を使用すると、有害な化学反応を起こす可能性があります。**
- **ブレーキ液を補充するときは、ブレーキリザーバータンクに水が入らないように注意してください。水が入るとブレーキ液の沸点が大幅に下がり、ベーパーロックを起こすことがあります。**

JAU22762

ドライブチェーン

JAU74253

ドライブチェーンの点検



1. ドライブチェーンのたわみ量

ギヤをニュートラルにしてサイドスタンドを立てます。前後スプロケット間のチェーン中央部を手で上下に動かし、たわみ量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

要　点

ドライブチェーンのたわみ量を点検するときは、車体に荷重を掛けないで行います。

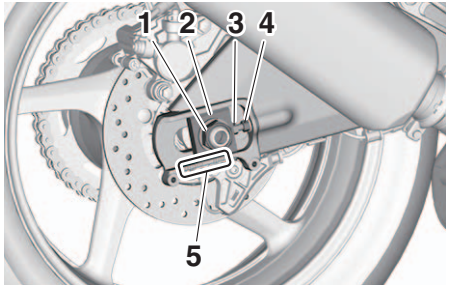
ドライブチェーンたわみ量：
20.0–30.0 mm

ドライブチェーンのたわみ量が規定の範囲にない場合は、たわみ量を調整します。
ドライブチェーンたわみ量の調整は、ヤマハ販売店にご相談ください。
また、車体を前後にゆっくり動かしてチェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。

JAU74260

ドライブチェーンたわみ量の調整

1. セルフロッキングナットをゆるめます。



1. セルフロッキングナット
2. チェーンプラー
3. アジャスター
4. ロックナット
5. 刻み目盛り

2. ロックナットをゆるめて、チェーンのたわみ量が規定値になるようにアジャスターで調整します。

要　点

刻み目盛りを左右同じ位置にします。

3. 調整後、セルフロッキングナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
セルフロッキングナット：
190 N·m (19 kgf·m)

4. ロックナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
ロックナット：
16 N·m (1.6 kgf·m)

5. 左右の刻み目盛りが同じ位置にあるか、ドライブチェーンたわみ量が規定の範囲にあるか、チェーンが滑らかに回転するか確認します。

JAU23027

ドライブチェーンの給油

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを柔らかいブラシなどで落とします。その後、ヤマルーブ スーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにヤマルーブ 180 チェーンオイルを給油します。

JCA12471

注 意

この車はシールチェーンを採用しています。取り扱いには以下の点に注意してください。

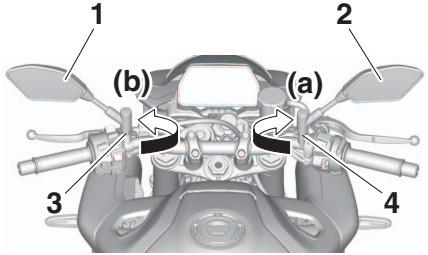
- **スチーム洗浄はしないでください。**
- **シンナー、ガソリンなどの揮発性溶剤やワイヤーブラシを使用して洗浄しないでください。**

JAU43562

バックミラー

バックミラーの脱着のしかた

- 右バックミラーは左ネジです。右バックミラーを取り外すときは、右バックミラー取り付けナットを時計回り（a）方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。
- 左バックミラーは右ネジです。左バックミラーを取り外すときは、左バックミラー取り付けナットを反時計回り（b）方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。



1. 左バックミラー
2. 右バックミラー
3. 左バックミラー取り付けナット
4. 右バックミラー取り付けナット

● バックミラーの取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU28621

車体各部の給油脂状態の点検

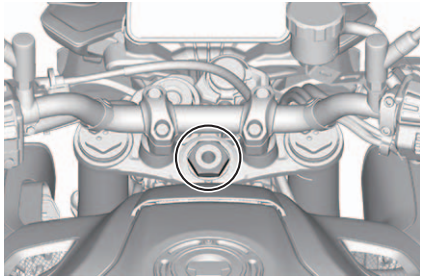
車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。

異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU28651

アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングステム）

アンダーブラケットの締付ボルトまたは締付ナットに、ゆるみがないかを工具で点検します。



締付ボルトまたは締付ナットにゆるみがあるときは、ヤマハ販売店で規定トルクでの締め付けを依頼してください。

JAU28762

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。
バッテリー液の補充、点検は不要です。
バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11811

⚠ 警 告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- **火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。**
- **補充電は風通しのよいところで行ってください。**
- **ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。**
- **落下などの強い衝撃を加えないでください。**
- **バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。**
- **子供の手の届くところに置かないでください。**

応急手当

- **万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。**
- **目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。**

JCA12142

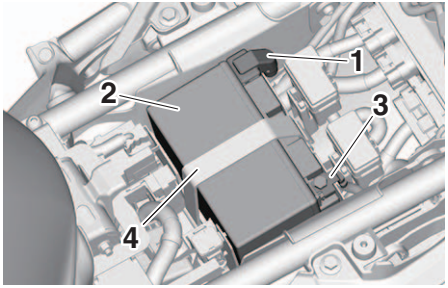
注 意

- **このバッテリーは密閉式の 12V です。**
- **このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。**
- **補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。**
- **長期間ご使用にならないときは、3 か月ごとに補充電してください。**
- **バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。**

JAU28791

バッテリーの取り外し

1. シートを取り外します。（4-33 ページ参照）
2. バッテリーバンドを外します。
3. －（マイナス）側リード線を外し、次に＋（プラス）側リード線を外します。
4. バッテリーを取り外します。



1. ＋リード線
2. バッテリー
3. －リード線
4. バッテリーバンド

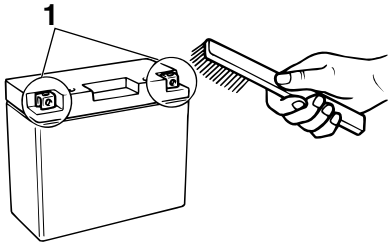
バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU29411

ターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。



1. ターミナル

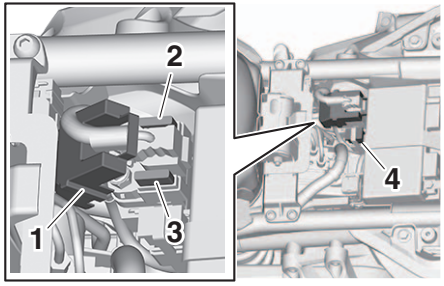
JAU94164

ヒューズの交換

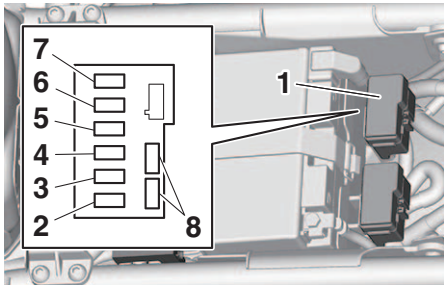
メインヒューズ、ABS モーターヒューズ、および個々の回路ヒューズを含むヒューズボックスはすべてシートの下にあります。

要　点

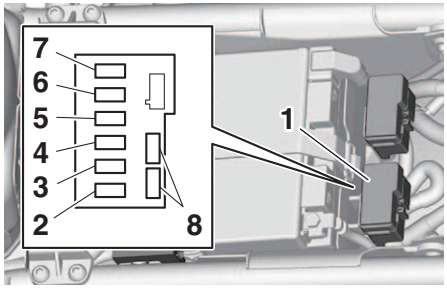
スターターリレーカバーを上に引き、取り外します。



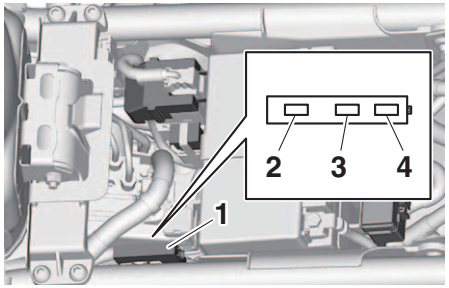
1. スターターリレーカバー
2. スペア ABS モーターヒューズ
3. ABS モーターヒューズ
4. メインヒューズ



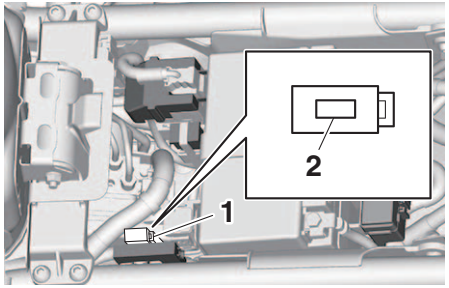
1. ヒューズボックス 1
2. ABS ソレノイドヒューズ
3. フューエルインジェクションヒューズ
4. 電子制御スロットルバルブヒューズ
5. バックアップヒューズ
6. サブラジエターファンモーターヒューズ
7. ラジエターファンモーターヒューズ
8. スペアヒューズ



1. ヒューズボックス 2
2. イグニッションヒューズ
3. ABS ECU ヒューズ
4. シグナルヒューズ
5. アクセサリーヒューズ
6. ヘッドライトヒューズ
7. DC ターミナルヒューズ 1
8. スペアヒューズ



1. ヒューズボックス 3
2. ブレーキランプヒューズ
3. クルーズコントロールヒューズ
4. スペアヒューズ



1. ヒューズボックス 4
2. SCU ヒューズ

ヒューズが切れたときは、以下のように交換します。

1. 車両の電源ををオフにします。
2. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。

規定ヒューズ：
メイン：
50.0 A
アクセサリー：
2.0 A
DC ターミナル 1:
2.0 A
ヘッドライト：
10.0 A
シグナル：
7.5 A
イグニッション：
15.0 A
ラジエターファンモーター：
15.0 A
サブラジエターファンモーター：
10.0 A
ABS モーター：
30.0 A
ABS ECU:
7.5 A
ABS ソレノイド：
15.0 A
SCU:
7.5 A
フューエルインジェクション：
15.0 A
バックアップ：
10.0 A
電子制御スロットルバルブ：
7.5 A
ブレーキランプ：
1.0 A
クルーズコントロール：
1.0 A

3. キーをオンにし、ヒューズ交換した装置が作動することを点検します。
4. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

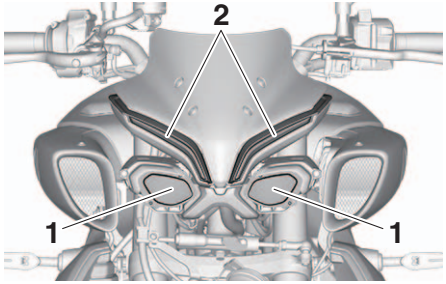
JCA12862

注 意

- **交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。**
- **電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。**
- **洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。**

JAU74912

灯火装置および方向指示灯の点検



1. ヘッドライト
2. マーカーランプ

1. 車両の電源をオンにします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（7-16 ページを参照）し、異常がないときはヤマハ販売店で点検整備を受けてください。

JAU29571

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

JAU35124

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。
すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

JCA13084

注 意

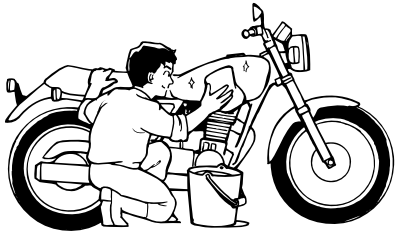
- **洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。**
- **ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。**
- **コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。**

JAU27795

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、充分に水洗いします。
- 柔らかい布で、車に付着した水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）



JWA11931

⚠ 警 告

- **洗車はエンジンが冷えているときにしてください。**
- **洗車後、ブレーキのききが悪くなることがあります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。**
- **ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因になることがあります。**

JCA12214

注 意

- **エアクリーナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。**
- **マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。**
- **ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。**

- **ウインドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが充分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。**
- **高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。**

要　点

- シートの下方から水を強くかけないでください。内部に水が入り、書類が濡れることがあります。
- 洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

JAU28001

アルミフレーム、キャストホイールの取り扱い

日常のお手入れ

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。
（工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。）
洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。
長期間お手入れをしませんと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないように、お手入れをしてください。

JWA11961

⚠警 告

変形したり、損傷したアルミフレームやキャストホイールは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12221

注 意

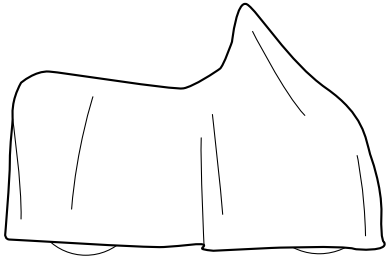
- **縁石などに乗り上げるときは、キャストホイールのリムが傷つきやすいので注意してください。**
- **アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを走った後は、すぐに水洗いをしてください。**

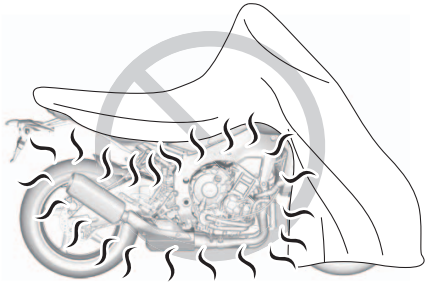
JAU35912

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。





JCA13111

注 意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- **保管する前にワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）サビを防ぐ効果があります。**
- **バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3 か月ごとに補充電を行ってください。**
- **長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。**

※ 補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU28087

アフターケア用品について

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

JAU80981

ヤマハ純正オイル

ヤマルーブ RS4GP

ヤマルーブシリーズ最高峰エンジンオイル。高負荷、高回転での過酷な条件に耐える油膜保持性、せん断安定性に優れ、長時間安定して高い潤滑性能を発揮します。

低摩擦特性・高い油膜保持性により、優れたスロットルレスポンスとシフトフィーリングを長時間安定して発揮します。

ヤマルーブプレミアムシンセティック

中・大型車両に最適な高品質二輪車用オイル。

大排気量モデルでの夏場の渋滞運転などエンジンには過酷な状況に強いオイル。

高温高負荷状況下で蒸発が少なく、高い酸化安定性能と油膜保持性能を発揮します。

お車の手入れ

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、次のURLを入力してホームページを参照するか、
「ヤマハ　バイク　オイル」というキーワードで検索してください。

https://www.ysgear.co.jp/mc/

ヤマハ バイク オイル　検索

寸法 :
全長 :
2100 mm
全幅 :
800 mm
全高 :
1165 mm
シート高 :
835 mm
軸間距離 :
1405 mm
最低地上高 :
135 mm

重量 :
車両重量 :
214 kg
乗車定員 :
2 名

性能 :
最小回転半径 :
3.4 m

エンジン :
行程 :
4 ストローク
冷却方式 :
水冷
動弁機構 :
DOHC
配列 :
直列
気筒数 :
4 気筒
総排気量 :
997 cm^3

フロントブレーキ :
ブレーキ形式 :
油圧式ダブルディスクブレーキ
指定ブレーキフルード :
BF-4 (DOT-4)

リヤブレーキ :
ブレーキ形式 :
油圧式シングルディスクブレーキ
指定ブレーキフルード :
BF-4 (DOT-4)

フロントタイヤ :
種類 :
チューブレス
サイズ :
120/70ZR17M/C(58W)
メーカー / 銘柄 :
BRIDGESTONE/BATTLAX
HYPERSPORT S22F

リヤタイヤ :
種類 :
チューブレス
サイズ :
190/55ZR17M/C(75W)
メーカー / 銘柄 :
BRIDGESTONE/BATTLAX
HYPERSPORT S22R

動力伝達機構 :
1 速 :
2.600 (39/15)
2 速 :
2.176 (37/17)
3 速 :
1.842 (35/19)
4 速 :
1.578 (30/19)
5 速 :
1.380 (29/21)
6 速 :
1.250 (30/24)

エレクトリカル :
電圧 :
12V

バルブワット数 :
ヘッドライト :
LED

製品仕様

ブレーキ / テールランプ :
LED
方向指示灯（前）:
LED
方向指示灯（後）:
LED
番号灯 :
LED
マーカーランプ :
LED

エンジンオイル :

推奨オイル :
ヤマルーブ RS4GP、プレミアムシンセティック

エンジンオイル量 :

オイル交換時 :
3.90 L
オイルフィルター取り外し時 :
4.10 L

冷却水容量 :

リザーブタンク（FULL レベルまで）:
0.24 L
ラジエターと全ての経路 :
2.25 L

バッテリー :

バッテリー型式 :
YTZ10S
バッテリー容量 :
12 V, 8.6 Ah (10 HR)

スパークプラグ :

メーカー / 型式 :
NGK/LMAR9E-J
プラグギャップ :
0.6–0.7 mm

JAU36644

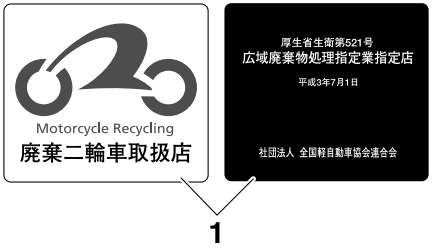
二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

一般社団法人　全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



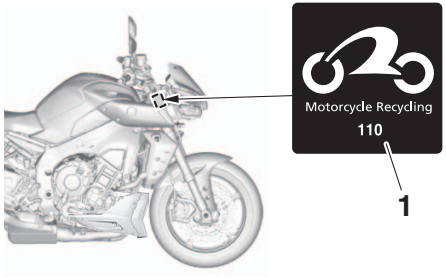
1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。
廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。
剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうかが不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記のホームページへお願いします。
ヤマハ発動機（株）　二輪車リサイクルシステム
https://www.yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/
公益財団法人　自動車リサイクル促進センターホームページ
https://www.jarc.or.jp/motorcycle/

JAU28393

サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。
サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

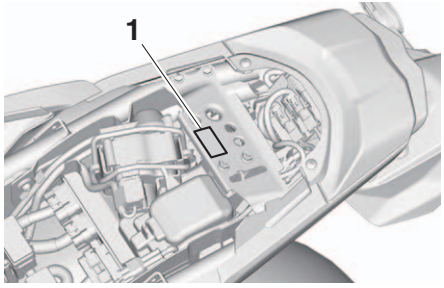
サービスマニュアル　部品番号：
QQS-CLT-000-B5Y

JAU28457

車両情報

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。
モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。
モデルラベルは、シート下のフレームに貼り付けてあります。

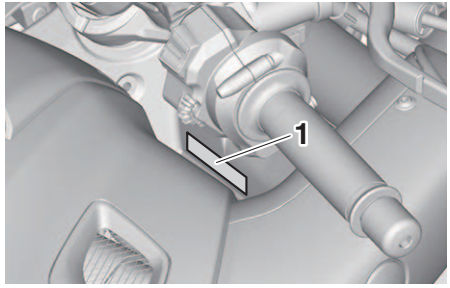


1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。
車名は
MT-10 SP
モデルラベル
製品仕様を示しています。
○
カラーリングを示しています。
●

JAU50501

車台番号

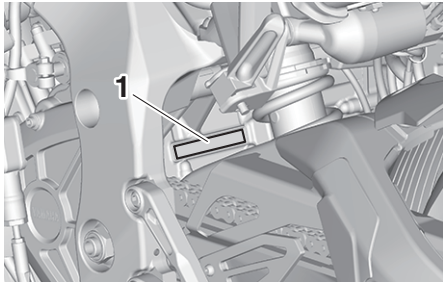


1. 車台番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU50511

原動機番号

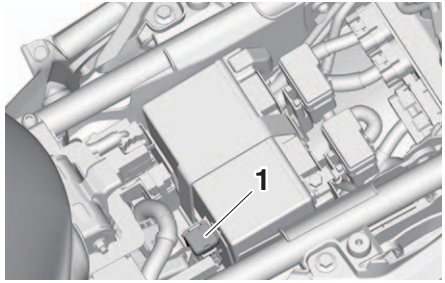


1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU73861

故障診断コネクター



1. 故障診断コネクター

この車には故障診断コネクターが搭載されています。

JAU74841

車両情報の記録に関して

この車両に搭載されているコンピューターは、故障診断や調査、開発を目的として、車両情報を記録しています。
記録された情報は、車両の点検や修理の際にヤマハ車専用の故障診断ツールを接続した場合に限り、ヤマハに送信されます。

モデルによって異なりますが、記録される主な情報は次のとおりになります。
- 車両の状態やエンジンの使用状況
- 排気ガスに関する情報

記録された情報は、次の場合を除き第三者へ開示されることはありません。
- お客様の同意をいただいた場合
- 法的に求められた場合
- ヤマハが裁判で使用する場合
- 車両や個人を特定することなく、ヤマハが統計調査などに使用する場合

索引

あ

あなた自身と同乗者のために 1-1
アフターケア用品について 8-3
アルミフレーム、
　キャストホイールの取り扱い 8-2
アンダーブラケットの
　取り付け状態の点検
　（ステアリングステム） 7-14

い

ERS 調整 4-22
ETC コネクター 4-38
イグニッションサーキットカット
　オフシステム 4-39
イモビライザーシステム 4-2

う

運行において異常が認められた
　箇所の点検 7-19

え

ABS 警告灯 4-7
エアクリーナーエレメントの交換 7-7
エンジンオイル 7-2
エンジン警告灯 4-6
エンジン始動 6-1
エンジンのかかり具合、
　異音の点検 7-3

か

環境・住民の方との調和のために 1-6

き

キーの取り扱い 4-1
ギヤチェンジのしかた 6-2

く

クラッチレバーの遊びの調整 7-9
クルーズコントロール /
　YVSL スイッチ 4-5
クルーズコントロールシステム 3-6
クルーズコントロール表示灯 4-6

け

警告灯と表示灯 4-6
原動機番号 10-3

こ

故障診断コネクター 10-3

さ

サービスツール 7-2
サービスマニュアル（別売）の
　紹介 10-2
サイドスタンド 4-39

し

シート 4-33
シフトタイミングインジケーター
　ランプ 4-7
シフトペダル 4-30
車体各部の給油脂状態の点検 7-14
車台番号 10-2
車両情報 10-2
車両情報の記録に関して 10-3
車両の特徴 3-1
書類入れ 4-34

す

スターター／エンジンストップ
　スイッチ 4-4

せ

洗車 8-1

た

タイヤ 7-7

ち

駐車 6-4

て

ディスプレイ 4-9
低速、加速の状態の点検 7-4
点検整備の実施 7-1

と

灯火装置および方向指示灯の
　点検 7-18
ドライブチェーン 7-12
ドライブチェーンの給油 7-13

な

ならし運転 6-1

に

荷掛けフック 4-37
日常点検箇所／点検内容 5-1
日常点検の実施 5-1
二輪車を廃棄する場合は？ 10-1

ね

燃料 4-33

は

ハザードスイッチ 4-5
バックミラー 7-13
バッテリー 7-15
パワーアウトレット 4-38
ハンドルスイッチ 4-3

ひ

ヒューズの交換 7-16

ふ

フューエルタンクキャップ 4-32
ブレーキ 6-3
ブレーキ液量の点検 7-11

ブレーキコントロール (BC).....4-31
ブレーキランプスイッチの点検.....7-10
ブレーキレバーの遊び／
　ブレーキペダルの遊び、および
　ブレーキのきき具合の点検.....7-10
ブレーキレバーの握り調整.....4-37
フロントおよび
　リヤブレーキパッドの点検.....7-10
フロントフォークの調整.....4-35

へ

ヘッドライト上下切り替え／
　パッシングライトスイッチ.....4-4
ヘルメットホルダー.....4-34

ほ

ホーンスイッチ.....4-4
方向指示器スイッチ.....4-4
保管のしかた.....8-3
歩行者と他の車のために.....1-5
補助システム警告灯.....4-9

め

メインスイッチ.....4-2
メニュー画面.....4-18

も

モデルラベル.....10-2

ゆ

油圧・冷却水温警告灯.....4-8

よ

用語集.....3-4

り

リヤクッションの調整.....4-36

れ

冷却水.....7-4

わ

YRC
　（ヤマハライドコントロール）.....3-1
YRC ビジュアルガイド.....3-5
YVSL.....3-8

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの巻末をご覧ください。

YAMAHA

QQS-CLT-100-BGG

PRINTED IN JAPAN
2023.05-0.1×1 (J)